

# 第3次町田市環境マスタープラン2022年度進捗報告

(第85回町田市環境審議会後修正版)

# 目次

1. 「第3次町田市環境マスタープラン」の概要	3
1.1 策定の背景、計画期間、位置づけ、将来像	4
1.2 第3次町田市環境マスタープランの構成	5
1.3 施策体系、成果指標	6
1.4 重点プロジェクトについて	9
2. 町田市における環境施策の実施状況	15
2.1 第3次町田市環境マスタープランの進捗評価	16
2.2 重点プロジェクトの進捗評価	39

# 1. 「第3次町田市環境 マスタープラン」の概要

1.1 策定の背景、計画期間、位置づけ、将来像 .....	4
1.2 第3次町田市環境マスタープランの構成.....	5
1.3 施策体系、成果指標 .....	6
1.4 重点プロジェクトについて.....	9

## 第3次町田市環境マスタープランについて

2022年3月に、第3次町田市環境マスタープラン(以下「第3次計画」という。)を策定しました。計画期間は、2022年度から2031年度の10年間です。

第3次計画では、町田市環境基本条例第3条に定める基本理念に基づき、「気候変動」「自然」「都市・歴史・文化」「廃棄物」「生活環境」「参加と協働」の6つの分野を計画の対象範囲としています。

### ■望ましい環境像

#### みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かな まちだ

第3次計画における望ましい環境像を設定しました。

市の取組に加え、市民・事業者等の各主体が環境問題を自分ゴトとして捉え、行動していくことで目指していくものです。

望ましい環境像を達成した町田市のイメージを示しています。

市内では、太陽光発電や次世代自動車が導入され、さまざまな場面でエネルギーを賢く利用するとともに気候変動への影響に備えています。また、みどりを活用・保全し、生物多様性が守られることにより、さまざまないのちが輝いています。さらに、町田市バイオエネルギーセンターにおける生ごみの資源化の推進等が進み、ごみの減量・資源化が徹底されています。

市内は、きれいな大気質や水質を維持し、安全で快適な暮らしを実現しています。こうした取組について、さまざまな主体による協働が進んでいます。



図 望ましい環境像を達成した町田市のイメージ

第3次計画では、前ページで示した望ましい環境像「みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かな まちだ」を実現するため5つの基本目標を設定し、その基本目標を推進するための施策、主要な事業である重点プロジェクトを設定しました。施策に基づく市の取組のほか、環境像の達成には市民の取組、事業者の取組が必要です。第3次計画の基本構成は以下の図の通りです。

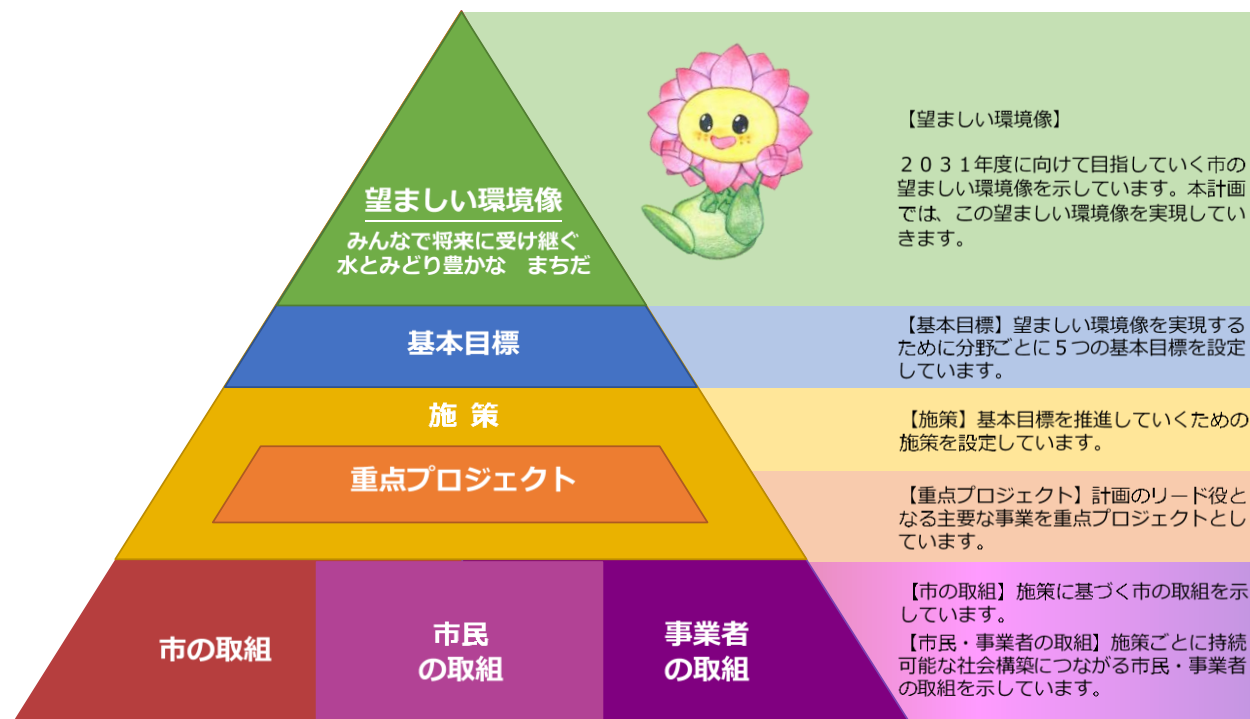


図 第3次計画の基本構成

## 第3次町田市環境マスタープランの施策体系

第3次計画の施策体系を示します。施策体系では、望ましい環境像を達成するための5つの基本目標とそれに紐づく施策、重点プロジェクトを示しています。なお「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」、「地域気候変動適応計画」は基本目標1に、「生物多様性地域戦略」は基本目標2に包含しています。基本目標3は「第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画」と整合を図ります。

望ましい環境像	基本目標	施策	重点プロジェクト	包含する分野別個別計画
みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かなまちだ	1 エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち	[1] 省エネルギーの普及・導入を進めます [2] 再生可能エネルギーの普及・導入を進めます [3] 将来的なゼロカーボンに向けたまちづくりを進めます [4] 身近な気候変動の影響への適応を進めます	重点プロジェクト1: 再生可能エネルギー等の利用拡大 重点プロジェクト2: 次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用 重点プロジェクト4: 地産地消の推進	地球温暖化対策実行計画(区域施策編) 1-[1]~[3] 地域気候変動適応計画 1-[4]
	2 源流から里山、都市が織りなすいのち輝くまち	[1] 生きものの多様性を守ります [2] 水とみどりを守り活用します [3] 歴史的・文化的環境を守ります	重点プロジェクト3: 里山環境の活用と保全	生物多様性地域戦略 2-[1]~[3]
	3 徹底したごみ減量、資源化を進めるまち	[1] ごみの減量を進めます [2] 環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます [3] 社会的課題への対応を強化します	重点プロジェクト5: フードドライブによる食品ロスの削減	整合を図る分野別個別計画 第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画 3-[1]~[3]
	4 安全で快適な暮らしを実現するまち	[1] 誰もが快適に安心して暮らせる環境を守ります [2] 美しく快適なまちを維持します		
	5 環境について、みんなで学び、協働を進めるまち	[1] さまざまなエコ市民の育成と協働のネットワーク構築を進めます [2] 誰にとってもわかりやすい環境情報を発信します		

基本目標1は、区域施策編と気候変動適応計画として位置づけ。基本目標2は生物多様性地域戦略として位置づけ。基本目標3は第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画と整合を図る。

## 第3次町田市環境マスタープランの成果指標

第3次計画の進捗を評価する目安として、各施策に関連する成果指標を設定しました。  
 成果指標は、第3次計画の施策に基づき取り組んだ成果が反映される成果指標として設定しました。  
 成果指標には基準値と目標値が設定しており、毎年度進捗状況を点検します。

施策	指標名	基準値	目標値
[1-1] 省エネルギーの普及・導入を進めます	●市内のエネルギー消費量	13,953TJ(2013年度)	9,365TJ(2030年度)約33%削減
	●家庭のエネルギー消費量(世帯数当たり)	32.8GJ/世帯(2013年度)	22.8GJ/世帯(2030年度)約31%削減
	●事業者のエネルギー消費量(延床面積当たり)	0.84GJ/㎡(2013年度)	0.57GJ/㎡(2030年度)約32%削減
[1-2] 再生可能エネルギーの普及・導入を進めます	●市内の再生可能エネルギー導入量(累計)	37,378kW(2019年度)	48,313kW(2030年度)約29%増加
[1-3] 将来的なゼロカーボンに向けたまちづくりを進めます	●市内の温室効果ガス排出量	1,489千t-CO <sub>2</sub> (2013年度)	998千t-CO <sub>2</sub> (2030年度)約33%削減
	●市内乗用車の登録台数に占めるEV、FCVの割合	0.99%(2019年度)	4.57%(2030年度)
[1-4] 身近な気候変動の影響への適応を進めます	●気候変動の影響に備えている市民の割合	—(2022年度)	基準値から10ポイント増加(2030年度)
[2-1] 生きものの多様性を守ります	●市民協働による生きもの調査への参加者数(延べ人数)	4,340人(2020年度)	10,000人(2031年度)
	●生きものに関心のある市民の割合	70%(2020年度)	80%(2031年度)
[2-2] 水とみどりを守り活用します	●みどりとのふれあいに満足している市民の割合	52%(2020年度)	62%(2031年度)
	●水辺とのふれあいに満足している市民の割合	48%(2020年度)	58%(2031年度)
	●みどり率	45.8%(2018年度)	現状維持(2031年度)
[2-3] 歴史的・文化的環境を守ります	●歴史・文化とのふれあいに満足している市民の割合	29%(2020年度)	39%(2031年度)
[3-1] ごみの減量を進めます	●1人1日当たりのごみ排出量	768 g/人日(2019年度)	714g/人日(2030年度)
[3-2] 環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます	●総資源化率	31%(2019年度)	40%(2030年度)
[3-3] 社会的課題への対応を強化します	●ごみの焼却による温室効果ガス排出量	約34,000 t-CO <sub>2</sub> (2019年度)	約24,000 t-CO <sub>2</sub> (2030年度)
[4-1] 誰もが快適に安心して暮らせる環境を守ります	●大気環境、水環境、騒音に関する環境基準の達成割合	78%(2019年度)	現状維持(2031年度)
	●居住地の周辺環境(大気、水質、騒音など)に満足している市民の割合	67%(2020年度)	77%(2031年度)
[4-2] 美しく快適なまちを維持します	●まち並みや景観に満足している市民の割合	43%(2020年度)	53%(2031年度)
[5-1] さまざまなエコ市民の育成と協働のネットワーク構築を進めます	●環境に配慮した行動を行っている市民の割合	—(2022年度)	基準値から10ポイント増加(2031年度)
	●エコ宣言事業者数	93店・事業所(2020年度)	120店・事業所(2031年度)
[5-2] 誰にとってもわかりやすい環境情報を発信します	●SNS等のフォロワー数	1,138(2020年度)	10,000(2031年度)



## 第3次町田市環境マスタープランの成果指標

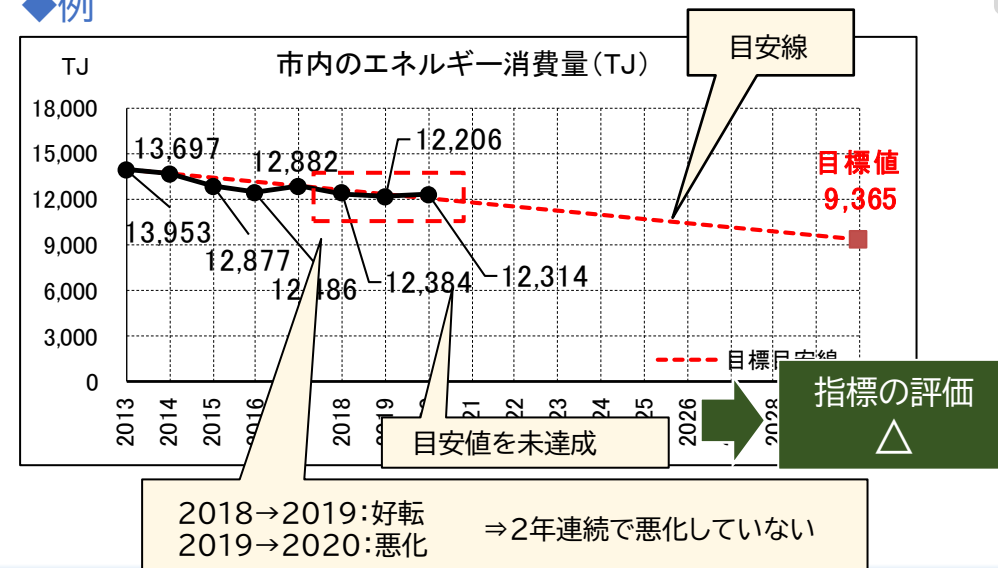
成果指標の評価方法は、分かりやすさや評価の妥当性などの観点から総合的に検討し、以下の方法としました。  
 単年度における目安値の達成、未達成だけでなく、二か年の推移も反映させることで評価結果を踏まえた施策への反映をしやすいものとした。

- ・ 基準年度の基準値から目標年度の目標値へ直線的に目安線を引き、各年度の達成すべき目安値とします。
- ・ 実績値が目安値を達成しているか、かつ前々年度からの推移で評価します。

### ◆進捗評価方法

指標の推移		指標の評価
目安値を達成した場合	2年連続で悪化していない	○
	2年連続で悪化している	△
目安値が未達成の場合	2年連続で悪化していない	△
	2年連続で悪化している	×

### ◆例





## 第3次町田市環境マスタープランの重点プロジェクト

第3次計画では、望ましい環境像を実現するために優先的に取り組み、市民と共有する計画のリード役となる主要な事業を重点プロジェクトとして位置づけています。

重点プロジェクトは、以下に示す視点に基づき設定しました。

- **環境課題の解決に大きく貢献する**

地域特性に起因する環境課題や社会的に強く要請される環境課題に対し、市が優先的に取り組み、課題解決を図るべきもの。

- **SDGsの視点から環境、経済、社会を統合的に向上する**

環境側面からアプローチすることで、市の環境課題だけではなく、経済面、社会面における地域課題に対しても、相乗的・副次的な効果が期待されるもの。

### ■進捗管理方法

重点プロジェクトは、将来への展望として市の基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」とも内容の整合を取りつつ、関連する成果指標とともに、10年間で取り組む工程を落とし込んだロードマップで進捗を図ります。

各プロジェクトは、5年を目途に事業の見直しを行い、方向性等を確認していきます。

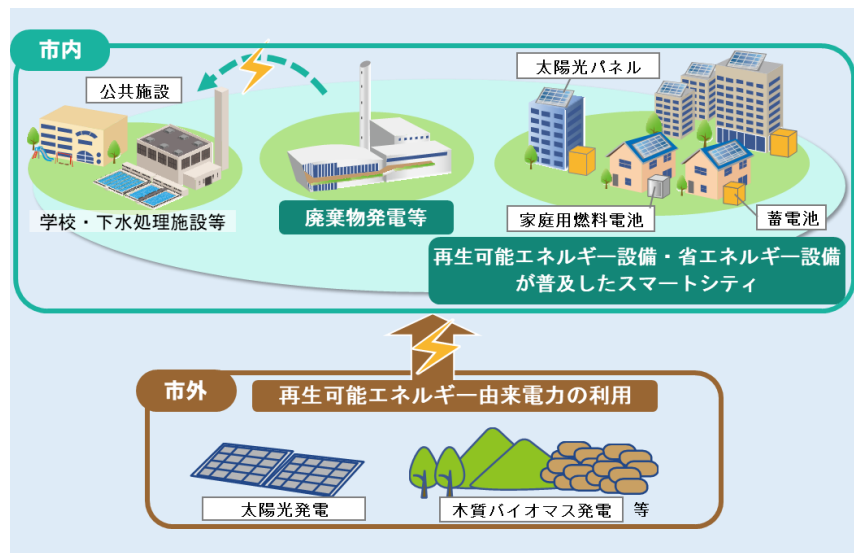
### ■重点プロジェクト

	重点プロジェクト名
重点プロジェクト1	再生可能エネルギー等の利用拡大
重点プロジェクト2	次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用
重点プロジェクト3	里山環境の活用と保全
重点プロジェクト4	地産地消の推進
重点プロジェクト5	フードドライブによる食品ロスの削減

## ◆重点プロジェクト1 再生可能エネルギー等の利用拡大

更なる再生可能エネルギー等の利用拡大に向け、市内の再生可能エネルギー等の普及拡大を行うとともに、市外から再生可能エネルギー由来のクリーンな電力を調達・利用する方法について、調査・検討などを行います。

### プロジェクトイメージ



### ロードマップ

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
ロードマップ			スマートシティのモデル構築の可能性検討・実証実験							
				スマートシティのモデル運用						
					成果を活かした市内での再生可能エネルギー等の導入					
				廃棄物発電等の活用方法の調査・検討・実証実験						
						廃棄物発電等の活用				
				再生可能エネルギー由来電力の利用方法の調査・検討・実証実験						
					利用制度の設計					
							利用制度の運用			
									5年目以降に事業を見直し後、方向性等を確認	

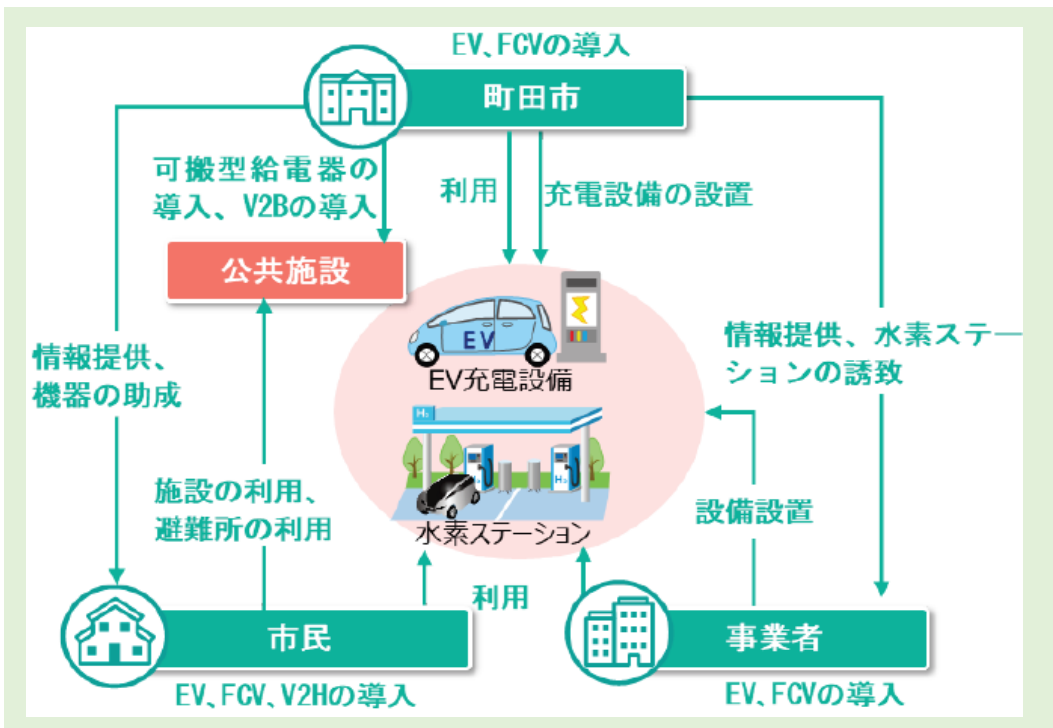
### 関連する課

- 市有財産活用課 ●営繕課 ●防災課 ●環境政策課 ●施設課 ●循環型施設管理課
- 循環型施設整備課 ●水再生センター

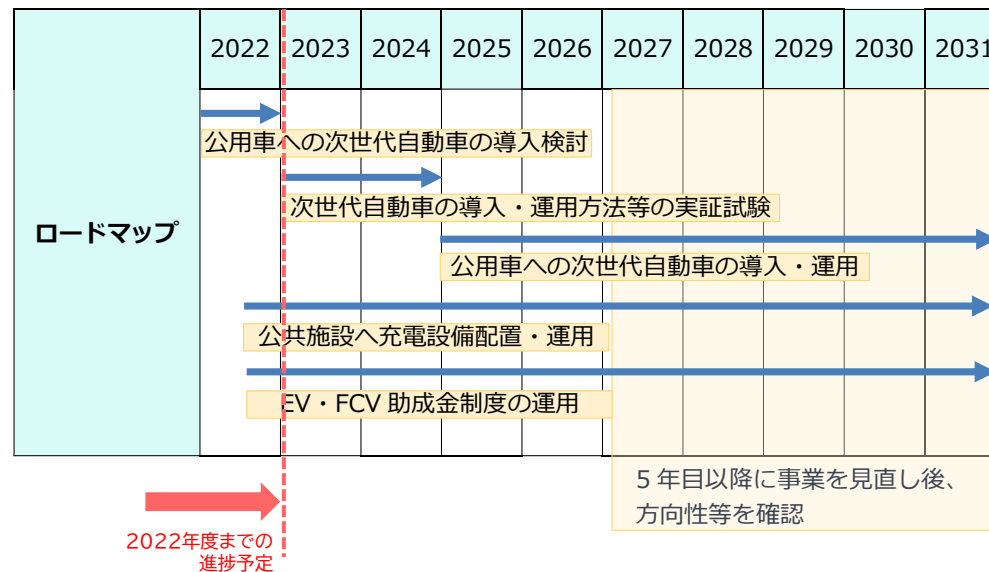
## ◆重点プロジェクト2 次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用

市内のEVやFCV普及のための取組を行うとともに、導入したEVやFCVの多面的な活用の仕組みを構築します。

### プロジェクトイメージ



### ロードマップ



### 関連する課

- 市有財産活用課
- 環境政策課
- 環境共生課
- 交通事業推進課

## ◆重点プロジェクト3 里山環境の活用と保全

里山環境を地域の社会基盤(グリーンインフラ)として捉え、多様な主体による連携・協働により時代に即した新たな循環サイクルを構築し、持続可能な保全につながる里山環境の活用を推進します。

### プロジェクトイメージ



### ロードマップ

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
ロードマップ	里山の情報集約・魅力発信									
	事業運営の下地づくり、里山環境の整備									
						事業者・環境団体等による事業実施				
						実施事業の検証(継続・拡充)				
5年目以降に事業を見直し後、方向性等を確認										

2022年度までの進捗予定

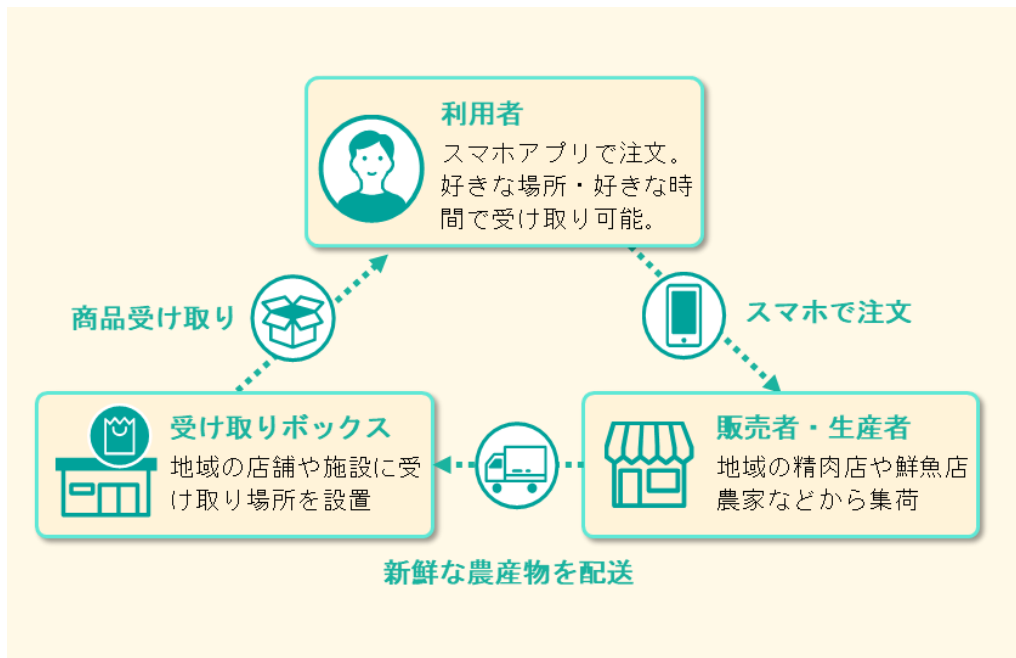
### 関連する課

- 農業振興課
- 観光まちづくり課
- 環境共生課
- 公園緑地課
- 地区街づくり課

## ◆重点プロジェクト4 地産地消の推進

生鮮食品EC(電子商取引)を活用した「地域生産物の販促・流通構築パッケージ」による課題解決方法を検討します。

### プロジェクトイメージ



### ロードマップ

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
ロードマップ	地産地消の情報発信									
	受け取りボックス増設									
	出荷登録者拡充					実施事業の検証 (継続・拡充)				
	5年目以降に事業を見直し後、方向性等を確認									

2022年度までの進捗予定

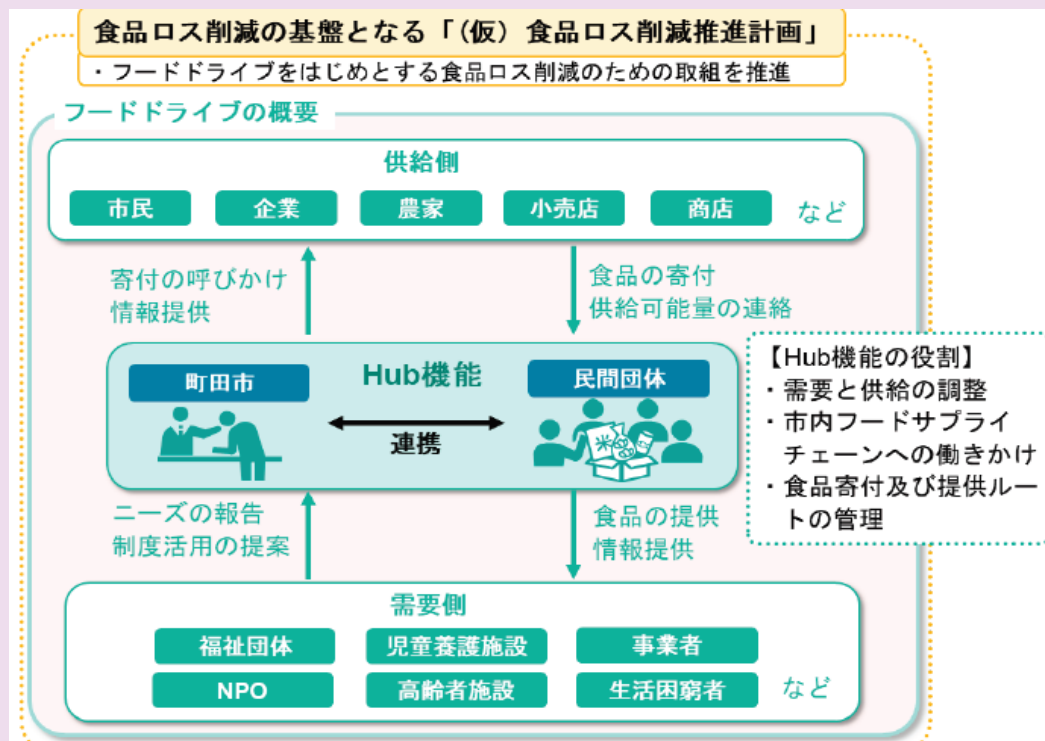
関連する課

●農業振興課

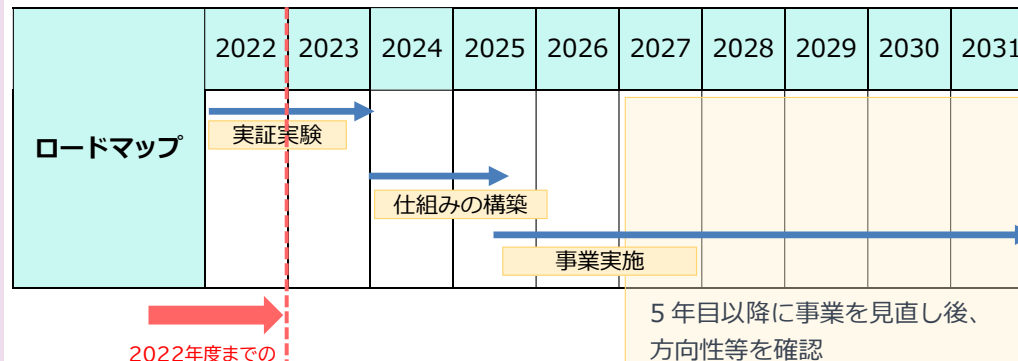
## ◆重点プロジェクト5 フードドライブによる食品ロスの削減

フードドライブの取組として、市や民間団体がつなぎ役となり、食品が余っているところ(供給側)と食品を必要としているところ(需要側)を結びつける仕組みを構築し、廃棄される食品をできる限り有効活用することで、食品ロスの削減を図ります。

### プロジェクトイメージ



### ロードマップ



### 関連する課

- 環境政策課
- 福祉総務課

## 2. 町田市における環境施策 の実施状況

2.1 第3次町田市環境マスタープランの進捗評価 .....	16
2.2 重点プロジェクトの進捗評価 .....	39



## 2.1 第3次町田市環境マスタープランの進捗評価

基本目標1

基本目標2

基本目標3

基本目標4

基本目標5

基本目標ごとに設定している成果指標の進捗状況を示します。

## ◆進捗状況◆

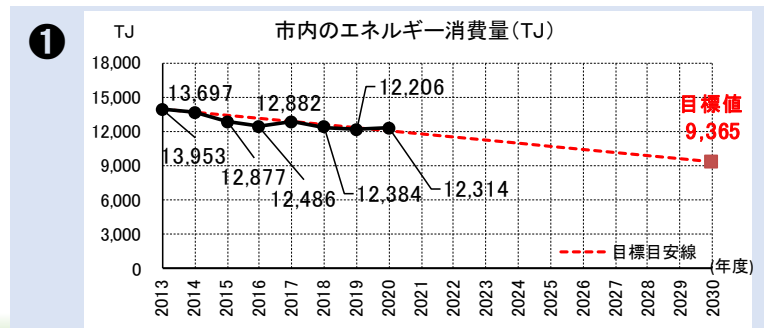
### 基本目標1

#### ◆成果指標

指標	基準値(年度)	目標値(目標年度)	現状	
			現状値(年度)	評価
市内のエネルギー消費量(TJ)	13,953 TJ (2013年度)	9,365 TJ (2030年度) 約33%削減	12,314 TJ (2020年度) 約12%削減	△
家庭のエネルギー消費量(世帯数当たり)(GJ/世帯)	32.8 GJ/世帯 (2013年度)	22.8 GJ/世帯 (2030年度) 約31%削減	30.8 GJ/世帯 (2020年度) 約6%削減	△
事業者のエネルギー消費量(延床面積当たり)(GJ/m <sup>2</sup> )	0.84 GJ/m <sup>2</sup> (2013年度)	0.57 GJ/m <sup>2</sup> (2030年度) 約32%削減	0.72 GJ/m <sup>2</sup> (2020年度) 約14%削減	○
市内の再生可能エネルギー導入量(累計)(kW)	37,378 kW (2019年度)	48,313 kW (2030年度) 約29%増加	41,771 kW (2021年度) 約12%増加	○
市内の温室効果ガス排出量(千t-CO <sub>2</sub> )	1,489千t-CO <sub>2</sub> (2013年度)	998千t-CO <sub>2</sub> (2030年度) 約33%削減	1,248 千t-CO <sub>2</sub> (2020年度) 約16%削減	△
市内乗用車の登録台数に占めるEV、FCVの割合(%)	0.99% (2019年度)	4.57% (2030年度)	1.37% (2021年度)	△
気候変動の影響に備えている市民の割合(%)	18.5% (2022年度)	28.5%(2030年度) 基準値から10ポイント増加	18.5% (2022年度)	-

#### ◆各成果指標の評価

①市内のエネルギー消費量は概ね目安線通りに進捗していますが、2020年度は前年度(2019年度)より増加しました。

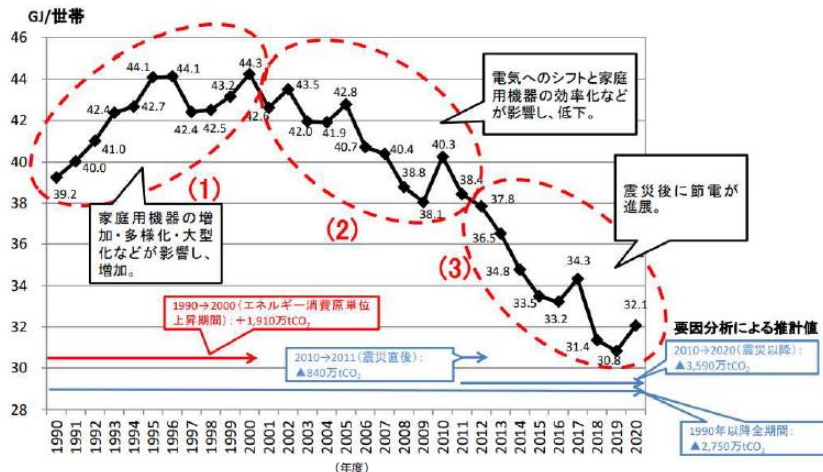


## ◆進捗状況◆

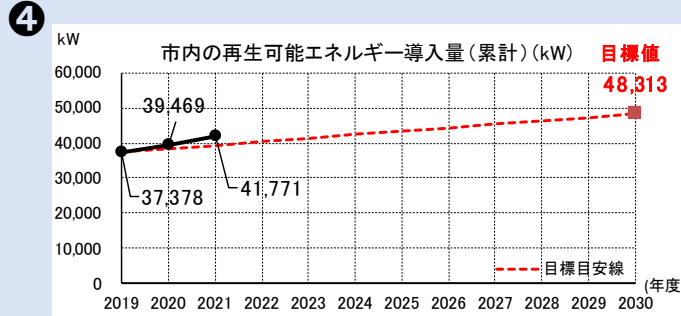
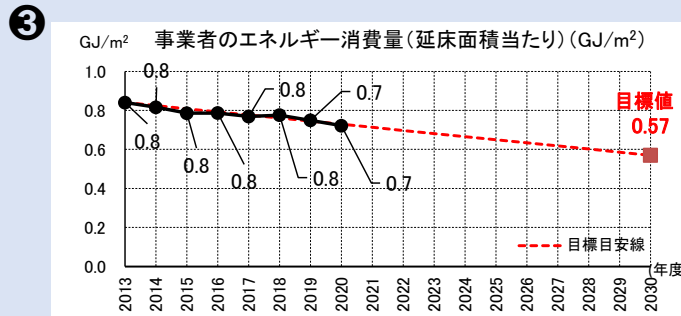
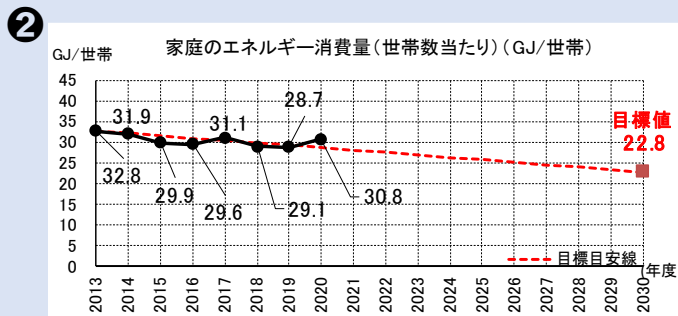
### 基本目標1

- ② 家庭のエネルギー消費量(世帯数当たり)は2017年度と同水準まで増加しました。2020年2月頃から全国的に感染拡大した新型コロナウイルス感染症による在宅時間の増加による影響と考えられます(2017年度の増加は、全国的な厳冬により暖房需要・給湯需要が増えたことによるものと考えられます)。2020年度の全国のエネルギー消費原単位(32.1GJ/世帯)よりも下回っており、全国と比較してエネルギー効率化が図られています。
- ③ 事業者のエネルギー消費量(延床面積当たり)は概ね目安線通りに進捗しています。
- ④ 市内の再生可能エネルギー導入量は目安線を上回って推移しています。再生可能エネルギーの種類は全て太陽光発電であり、このうち8割以上が10kW未満の、主に家庭用太陽光発電となっています。再生可能エネルギー導入量は固定価格買取(FIT)制度により認定された設備導入容量から把握しています。

### ◆【参考】全国のエネルギー消費原単位 世帯数当たりエネルギー消費量の推移(全国)



出典：2020年度(令和2年度)温室効果ガス排出量(環境省)

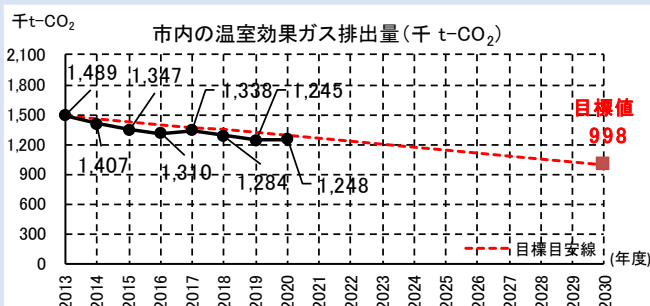


## ❖進捗状況❖

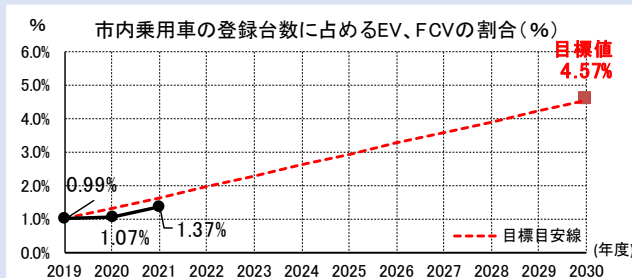
### 基本目標1

- ⑤市内の温室効果ガス排出量は概ね目安線通りに進捗していますが、前年度(2019年度)より増加しました。町田市の二酸化炭素排出量は民生(家庭)部門が5割近くを占めており、民生(家庭)部門における増加の影響が表れたと考えられます。民生(家庭)部門以外の部門には、産業部門、民生(業務)部門、運輸部門、廃棄物部門があり、自治体の特性によって割合が異なります。
- ⑥市内の乗用車の登録台数に占めるEV(電気自動車)、FCV(燃料電池自動車)の割合は概ね目安線通りに進捗しています。
- ⑦気候変動に備えている市民の割合は、第3次計画策定に合わせたアンケート調査内容の更新に伴い2022年度実績を基準値としています。2022年度は18.5%でした。

⑤

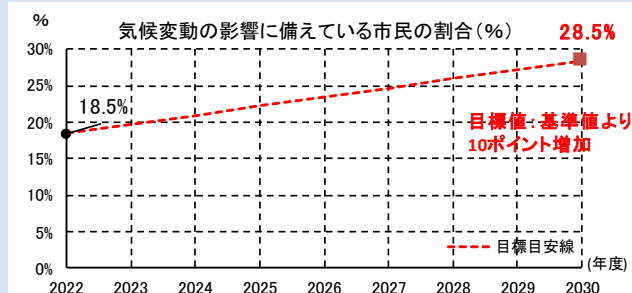


⑥



⑦

2022年度の実績を調査する、2023年4月実施アンケートから調査項目を一部変更しています。



## ❖進捗状況❖

### 基本目標1

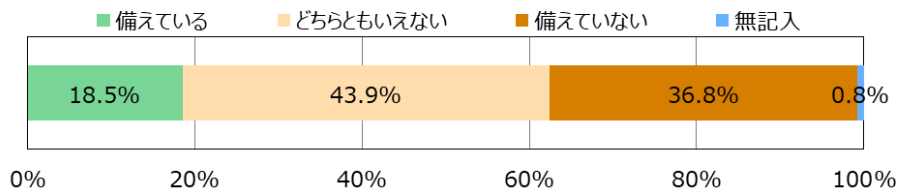
#### 【参考】アンケート結果

- ❶「気候変動に備えているか」という設問について、「どちらともいえない」と回答した人が43.9%で最も多くなっています。
- ❷一方で「災害への準備・対策」の具体的な内容として、「洪水・土砂災害ハザードマップの確認」「3日分程度の食料品の備蓄」「懐中電灯、携帯ラジオなどの防災グッズの備蓄」について「準備・対策している」と回答した人は50%以上となっています。
- ❸また、「熱中症の予防や対策」をしていると回答した人は50%以上となっています。

#### ❶ 【気候変動に備えている市民の割合】

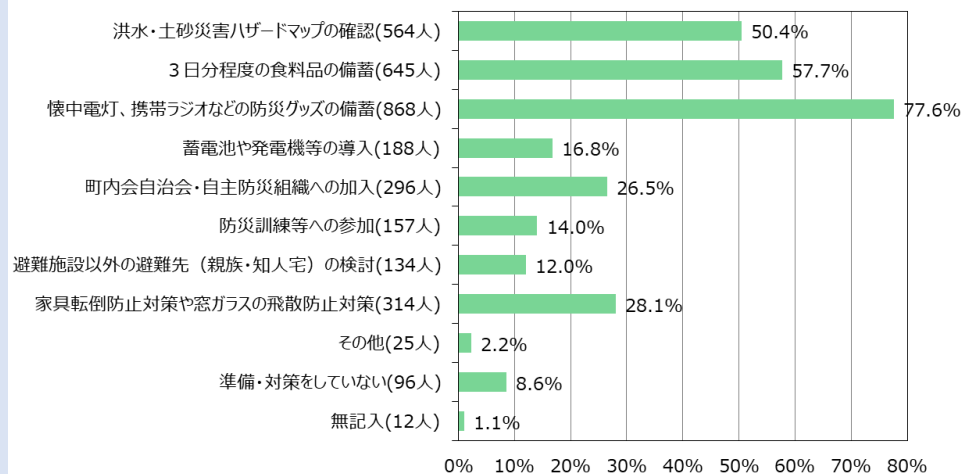
※新設項目

(回答者数 = 1,118人)



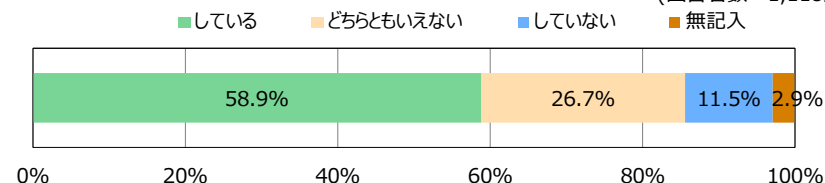
#### ❷ 【災害への準備・対策】

(回答者数 = 1,118人)



#### ❸ 【熱中症の予防や対策をしている市民の割合】

(回答者数 = 1,118人)



## ❖進捗状況❖

### 基本目標2

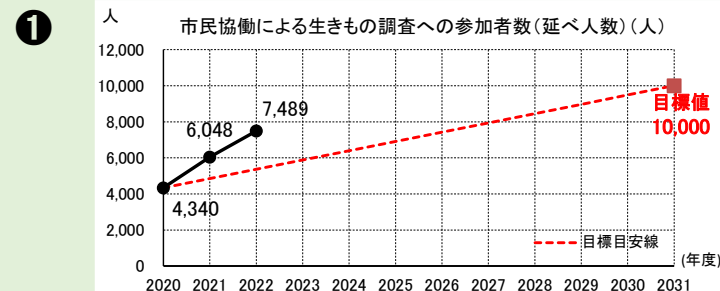
#### ◆成果指標

指標	基準値 (年度)	目標値 (目標年度)	現状	
			現状値 (年度)	評価
市民協働による生きもの調査への参加者数(延べ人数) (人)	4,340人 (2020年度)	10,000人 (2031年度)	7,489人 (2022年度)	○
生きものに関心のある市民の割合(%)	70% (2020年度)	80% (2031年度)	61% (2022年度)	×
みどりとのふれあいに満足している市民の割合(%)	52% (2020年度)	62% (2031年度)	53% (2022年度)	△
水辺とのふれあいに満足している市民の割合(%)	48% (2020年度)	58% (2031年度)	42% (2022年度)	×
みどり率(%)	45.8% (2018年度)	現状維持(2031年度)	-	-
歴史・文化とのふれあいに満足している市民の割合(%)	29% (2020年度)	39% (2031年度)	22% (2022年度)	×

※みどり率は5年毎に東京都が調査を行っており、2022年度の調査は実施されていない

#### ◆各成果指標の評価

①市民協働による生きもの調査への参加者数は目安線を上回って推移しています。

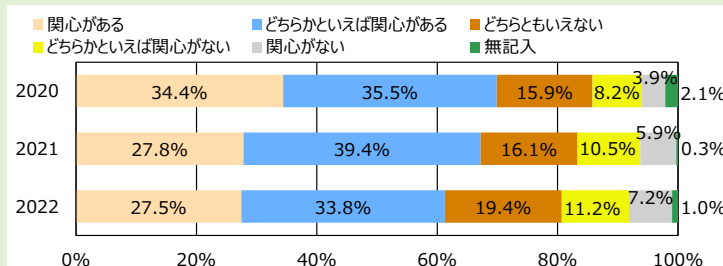


## ❖進捗状況❖

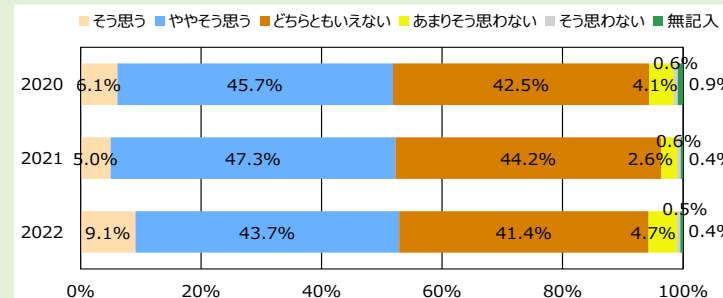
### 基本目標2

- ②生きものに関心のある市民の割合(「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計)は2年連続の低下がみられます。「関心がある」人の割合はほぼ変動はありませんが、「どちらかと言えは関心がある」人の割合が減少し、「どちらともいえない」人の割合が増加しました。
- ③みどりとのふれあいに満足している市民の割合は概ね目安線通りに進捗しています。

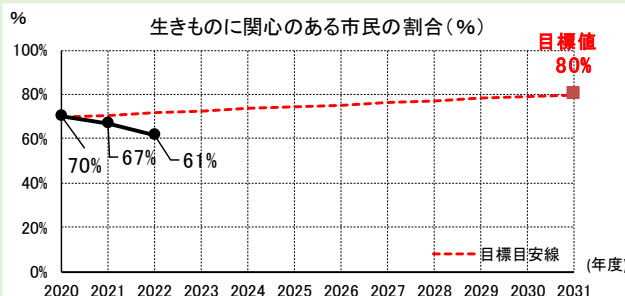
【参考】生きものに関心のある市民の割合の推移



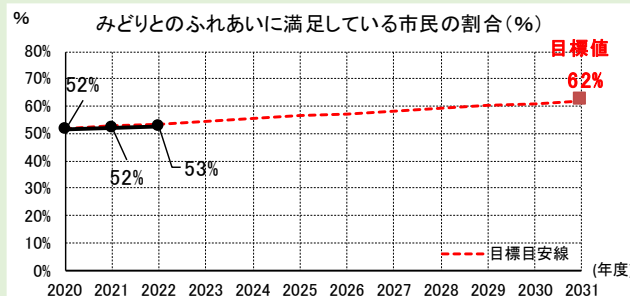
【参考】みどりとのふれあいに満足している市民の割合の推移



②



③



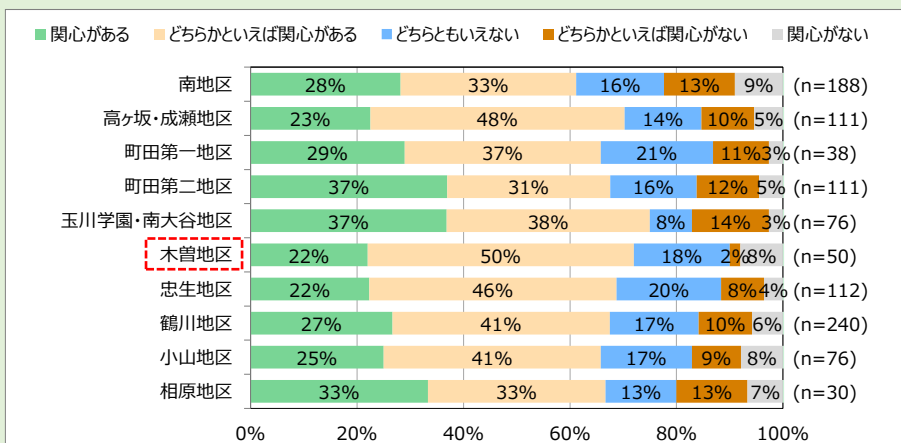


## ❖進捗状況❖

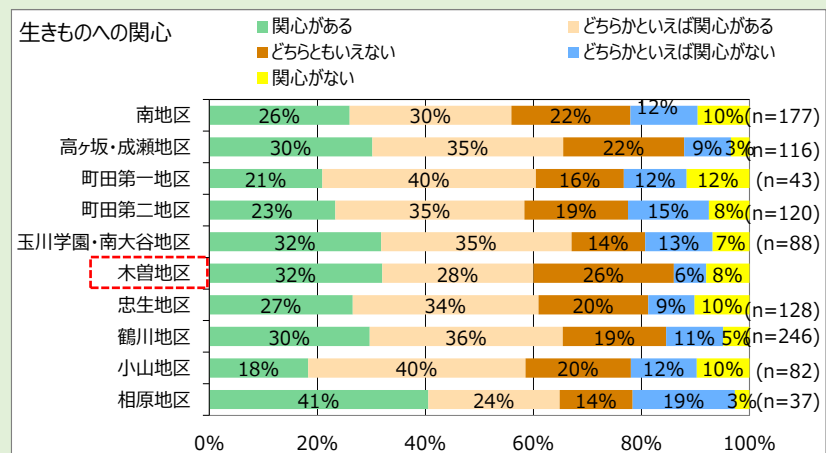
### 基本目標2

#### 【参考】生きものに関心のある市民の割合(地区別)

##### 【2021年度】



##### 【2022年度】



生きものに関心のある市民の割合(「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計)を地区別で見ると、

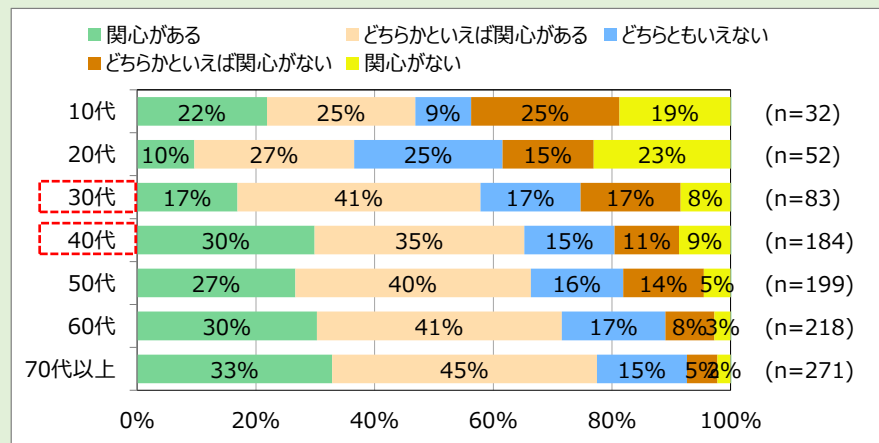
生きものに関心のある市民の割合(「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計)は全ての地区で減少しており、木曽地区で最も減少(12ポイント減)しています。

## ❖進捗状況❖

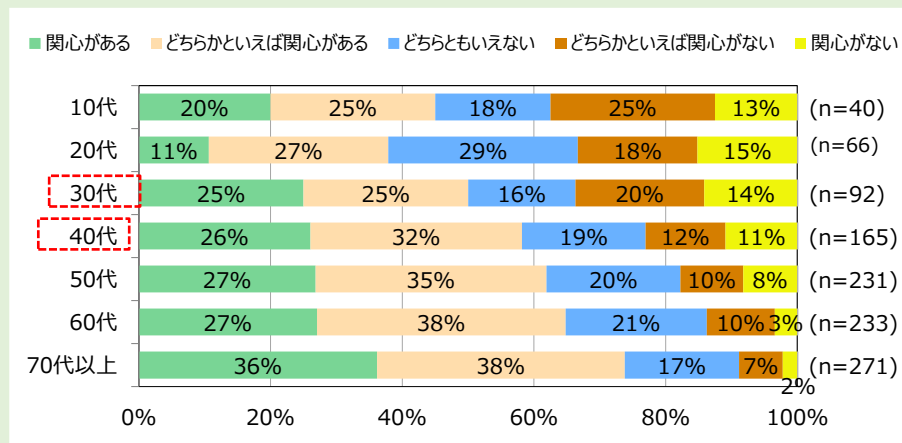
### 基本目標2

#### 【参考】生きものに関心のある市民の割合(年代別)

##### 【2021年度】



##### 【2022年度】



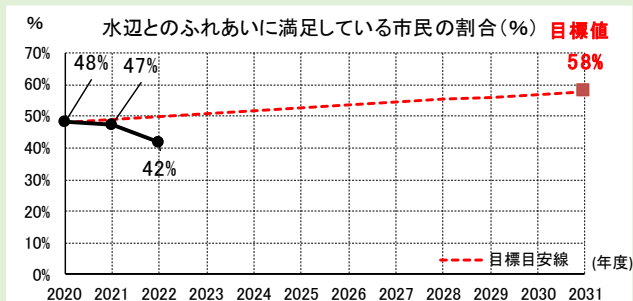
生きものに関心のある市民の割合(「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計)を年代別で見ると、30代、40代で、7ポイント以上減少しています。年代が上がるほど関心度合いが高くなる傾向は変わっていません。

## ❖進捗状況❖

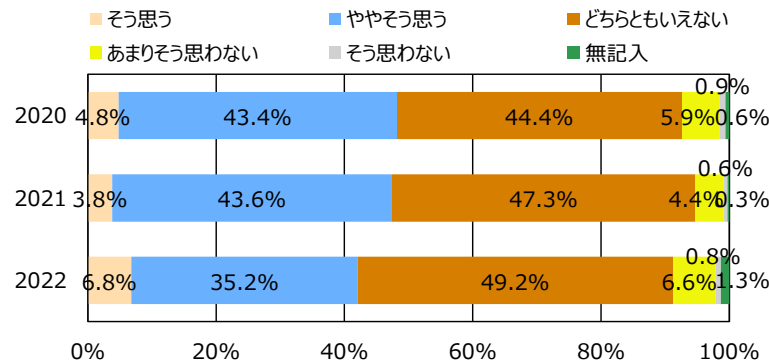
### 基本目標2

④水辺とのふれあいに満足している市民の割合は、2年連続の低下がみられます。内訳として、「そう思う(満足している)」市民の割合は増加しましたが、「ややそう思う(やや満足している)」市民の割合が減少しています。

④

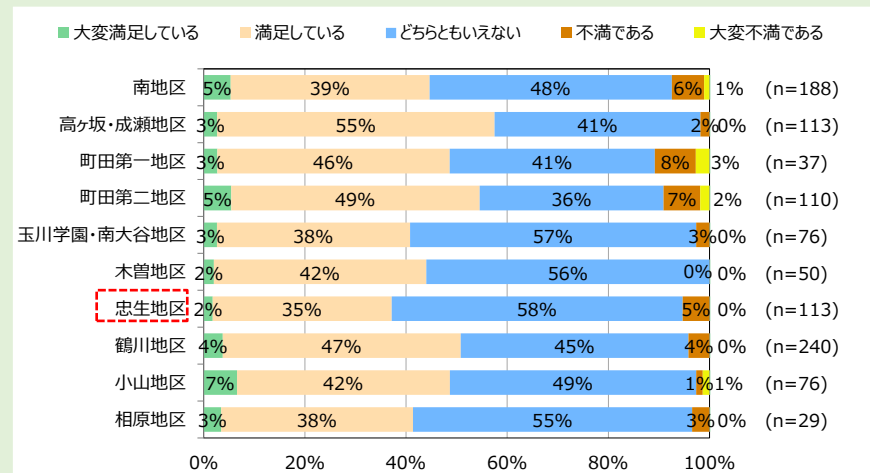


【参考】水辺とのふれあいに満足している市民の割合の推移



【参考】水辺とのふれあいに満足している市民の割合(地域別)

【2022年度】



水辺とのふれあいに満足している市民の割合は「高ヶ坂・成瀬地区」「町田第二地区」で高くなっており、「忠生地区」で低くなっています。

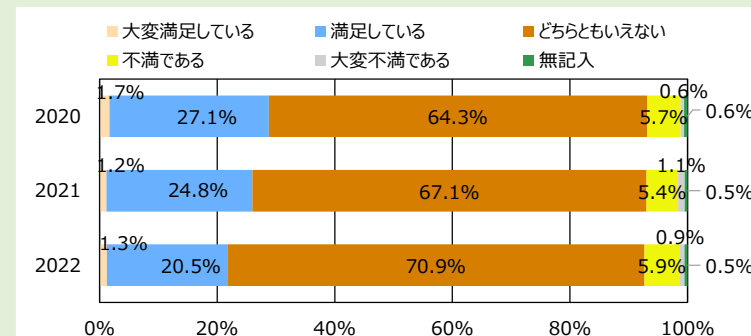
年代別は大きな偏りはありませんでした。

## ❖進捗状況❖

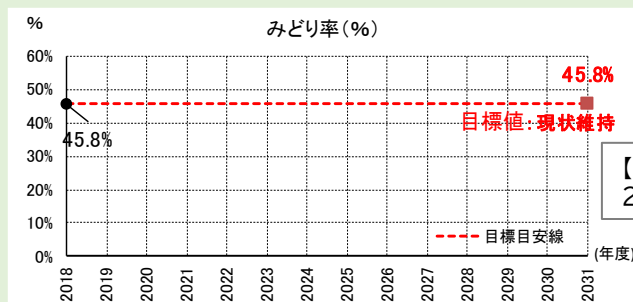
### 基本目標2

- ⑤みどり率は5年に1度の調査のため、2019～2022年度は調査結果はありません。
- ⑥歴史・文化とのふれあいに満足している市民の割合(「大変満足している」と「満足している」の合計)は、前年度から5ポイント近く低下しています。「不満である」「大変不満である」割合はほとんど変動はありませんが、「どちらともいえない」割合が増加し、「満足している」割合が低下しています。

### 【参考】歴史・文化とのふれあいに満足している市民の割合の推移

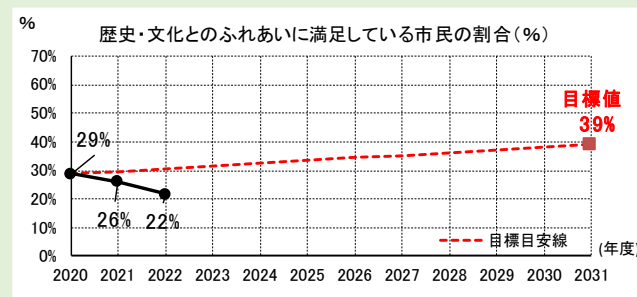


⑤



【みどり率】5年に1度の調査のため、2019～2022年度は調査なし。

⑥



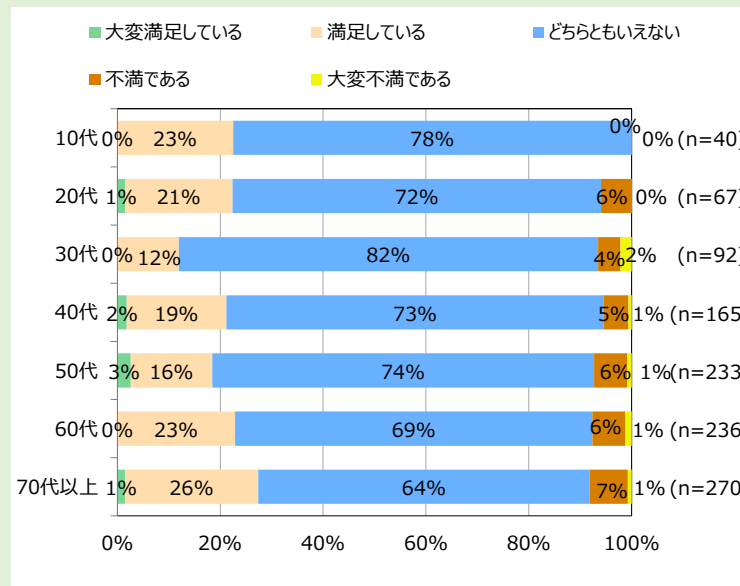
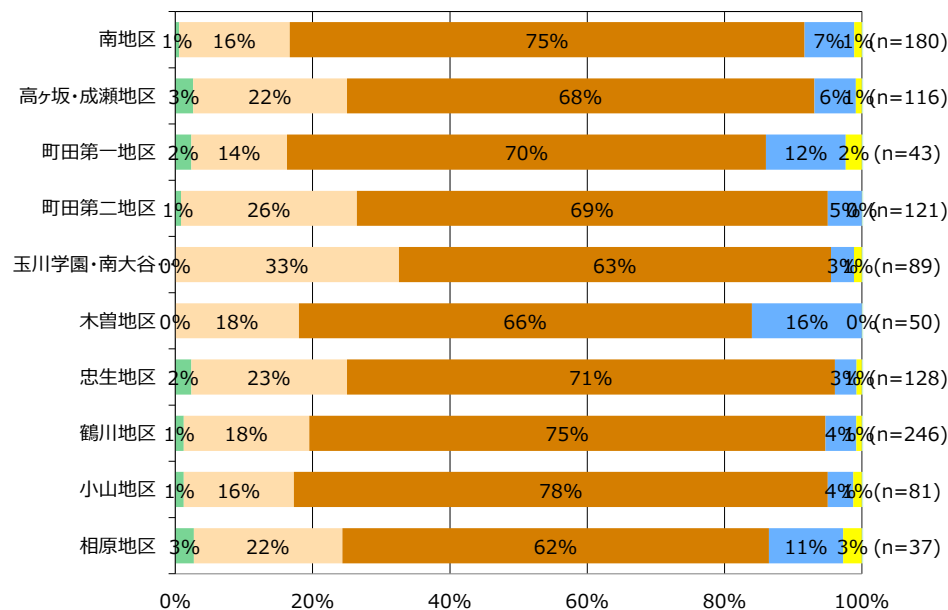
## ❖進捗状況❖

### 基本目標2

#### 【参考】歴史・文化とのふれあいに満足している市民の割合の推移

歴史や文化とのふれあい

■ 大変満足している ■ 満足している ■ どちらともいえない ■ 不満である ■ 大変不満である



歴史と文化とのふれあいに満足している市民の割合は「玉川学園・南大谷地区」で高くなっており、「町田第一地区」「南地区」「小山地区」で低くなっています。

年代別は大きな偏りはありません。

## ❖進捗状況❖

## 基本目標3

## ◆成果指標

指標	基準値 (年度)	目標値 (目標年度)	現状	
			現状値 (年度)	評価
1人1日当たりのごみ排出量(g/人日)	768 g/人日 (2019年度)	714g/人日 (2030年度)	741g/人日 (2022年度)	○
総資源化率(%)	31% (2019年度)	40% (2030年度)	33% (2022年度)	△
ごみの焼却による温室効果ガス排出量(t-CO <sub>2</sub> )	約34,000 t-CO <sub>2</sub> (2019年度)	約24,000 t-CO <sub>2</sub> (2030年度)	約45,229 t-CO <sub>2</sub> (2022年度)	×

## ◆指標の算出方法

※ 1人1日当たりのごみ排出量 = (総ごみ量(資源を含む) + 集団回収) ÷ 人口 ÷ 日数

※ 総資源化率 = 資源化量合計 ÷ (総ごみ量(資源を含む) + 集団回収)

資源化量合計には焼却灰をエコセメント化する量も含む。

※ 温室効果ガス排出量 = 一般廃棄物(プラスチックごみ及び合成繊維)の焼却に伴い排出される非エネルギー起源CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)  
+ 一般廃棄物に伴い排出されるCH<sub>4</sub>(メタン)及びN<sub>2</sub>O(一酸化二窒素)

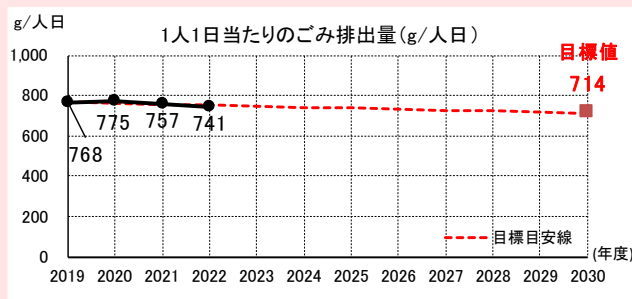
## ❖進捗状況❖

### 基本目標3

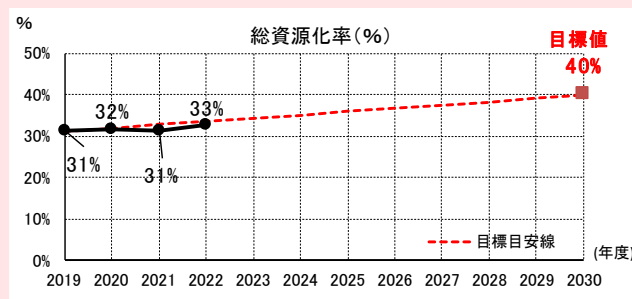
#### ◆各成果指標の評価

- ❶ 1人1日当たりのごみ排出量、❷ 総資源化率は概ね目安線通りに進捗しています。
- ❸ ごみの焼却による温室効果ガス排出量は増加傾向にあります。ごみの焼却による温室効果ガスは主に、化石燃料由来であるプラスチックや合成繊維のごみから排出されます。全体としてのごみ排出量は減少していますが、プラスチックや合成繊維のごみが増加しているため、ごみの焼却による温室効果ガス排出量が増加しているものと考えられます。

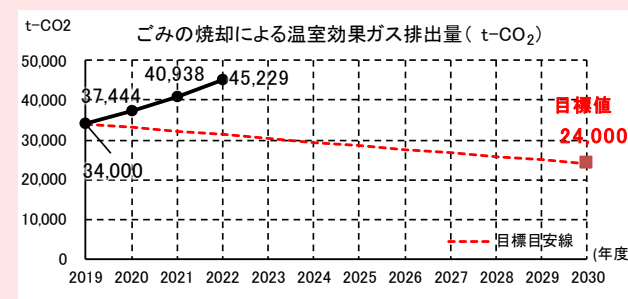
❶



❷



❸





## ❖進捗状況❖

### 基本目標3

#### 【参考】ごみ量等の推移

- ①ごみの焼却による温室効果ガス排出量のガス種別推移を示します。ごみの焼却に伴う温室効果ガス排出量のうち、「プラスチックごみ及び合成繊維」の焼却に伴い排出される非エネルギー起源CO<sub>2</sub>が9割以上を占め、残り1割が「プラスチックごみ及び合成繊維」以外のごみを含む一般廃棄物から排出される温室効果ガスです。
- ②総ごみ量(資源を含む)+集団回収量は減少傾向にあります。

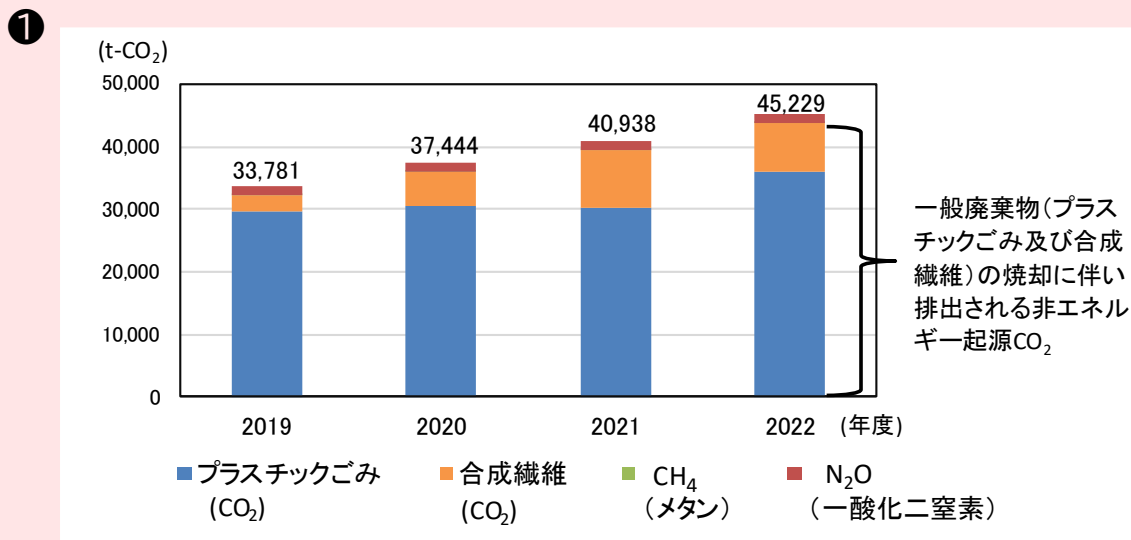


図 ごみの焼却による温室効果ガス排出量のガス種別推移

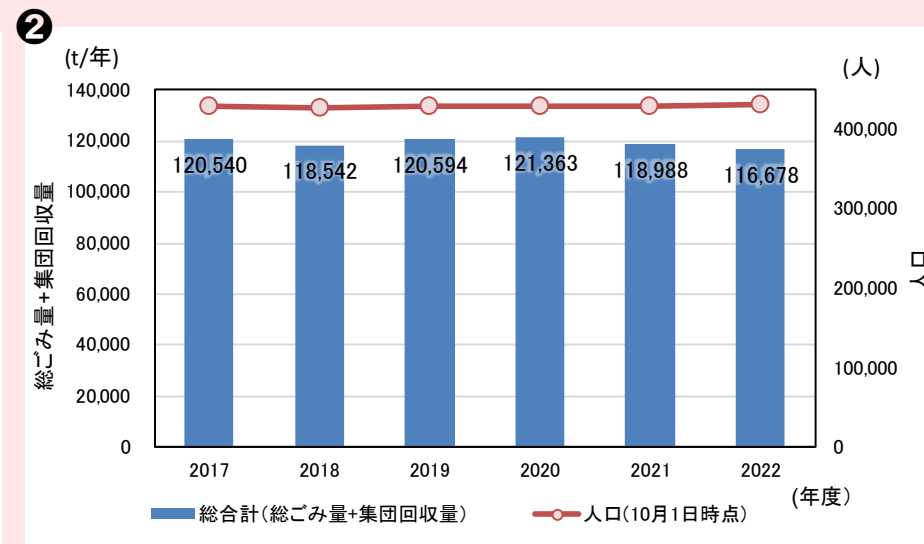


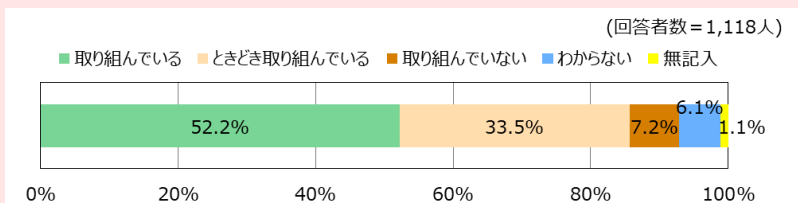
図 総ごみ量(資源を含む)+集団回収および人口の推移

### ❖進捗状況❖

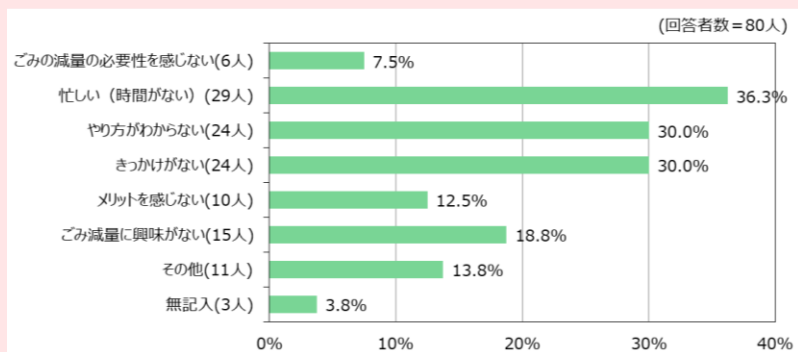
#### 基本目標3

#### ◆【参考】アンケート結果

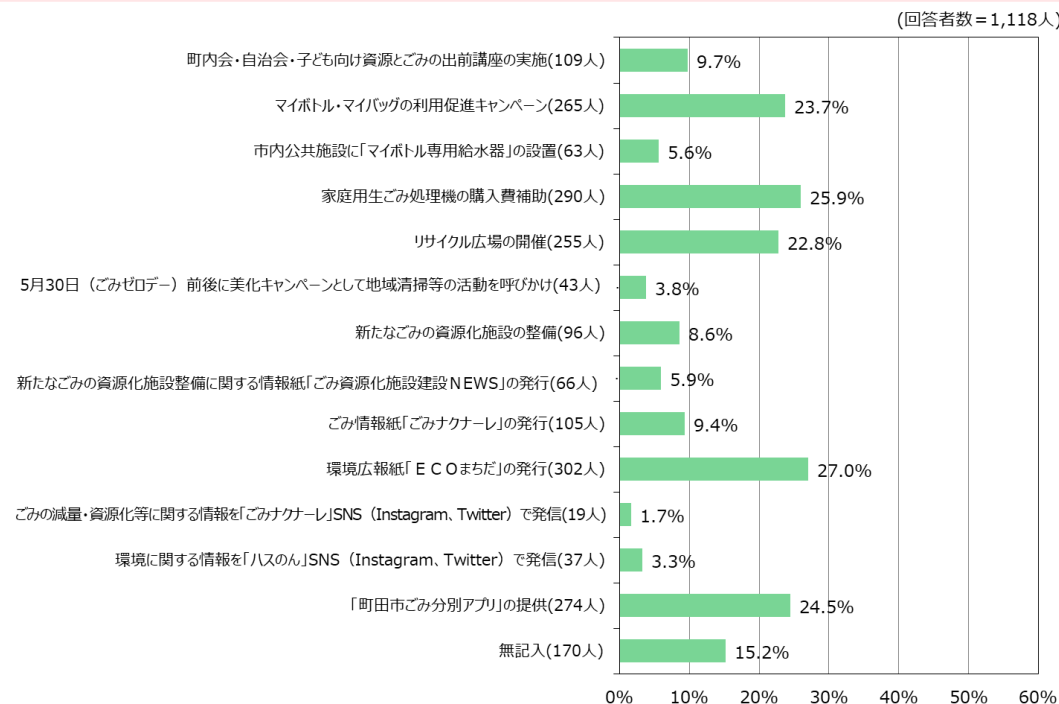
##### ①【ごみ減量の取組について】



##### ②【ごみの減量に取り組んでいない理由】



##### ③【市のごみ減量に関する取組について知っているもの】



- ① 9割近くの市民がごみ減量に取り組んでおり、ごみ減量への意識が高いことが分かります。
- ② 一方で取り組んでいない理由として「忙しい(時間がない)」「やり方がわからない」「きっかけがない」が多く挙げられています。
- ③ 町田市の資源・ごみに関連する取組の認知度も高くはありません。

## ❖進捗状況❖

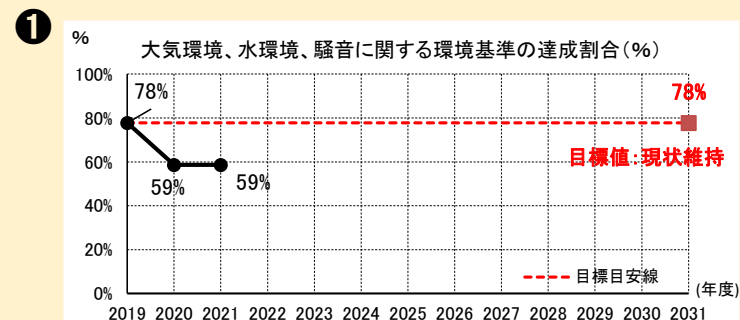
### 基本目標4

#### ◆成果指標

指標	基準値 (年度)	目標値 (目標年度)	現状	
			現状値 (年度)	評価
大気環境、水環境、騒音に関する環境基準の達成割合(%)	78% (2019年度)	現状維持 (2031年度)	59% (2021年度)	×
居住地の周辺環境(大気、水質、騒音など)に満足している市民の割合(%)	67% (2020年度)	77% (2031年度)	51% (2022年度)	△
まち並みや景観に満足している市民の割合(%)	43% (2020年度)	53% (2031年度)	45% (2022年度)	△

#### ◆各成果指標の評価

- ①大気環境、水環境、騒音に関する環境基準の達成割合は前年度と同じ水準となり、目安線より大きく乖離しています。大気環境、水環境の環境基準はおおむね維持していますが、騒音の環境基準未達成数が増加しています。

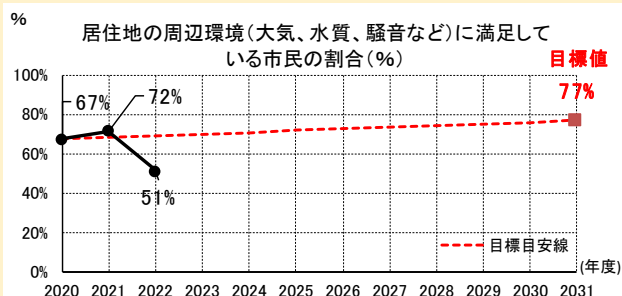


## ❖進捗状況❖

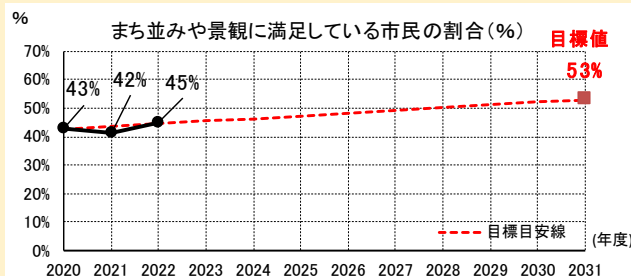
### 基本目標4

- ② 居住地の周辺環境(大気、水質、騒音など)に満足している市民の割合は前年度に比べて約20ポイント低下しました。満足している人の割合が低下し、また不満に感じている人の割合が増加しています。
- ③ まち並みや景観に満足している市民の割合は概ね目安線通りに進捗しています。

②

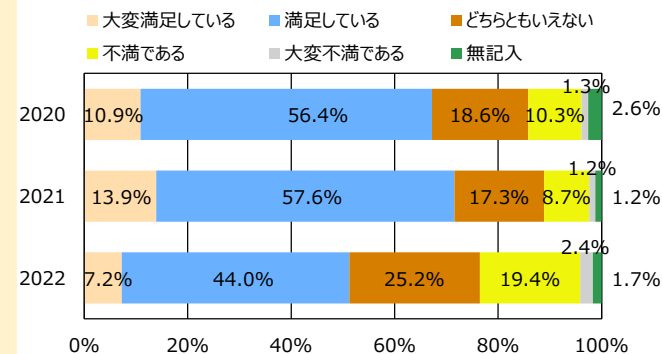


③

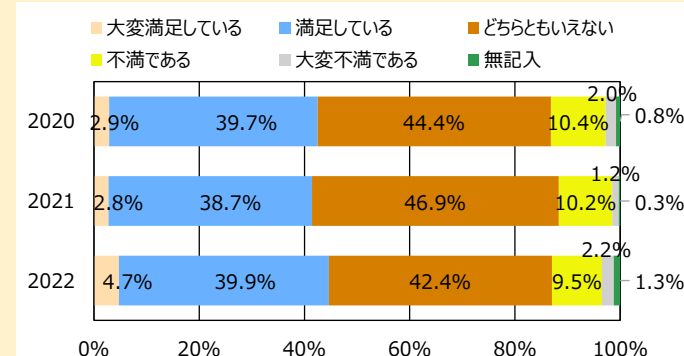


### 【参考】アンケート結果

#### ④【居住地の周辺環境について】



#### ⑤【まち並みや景観について】

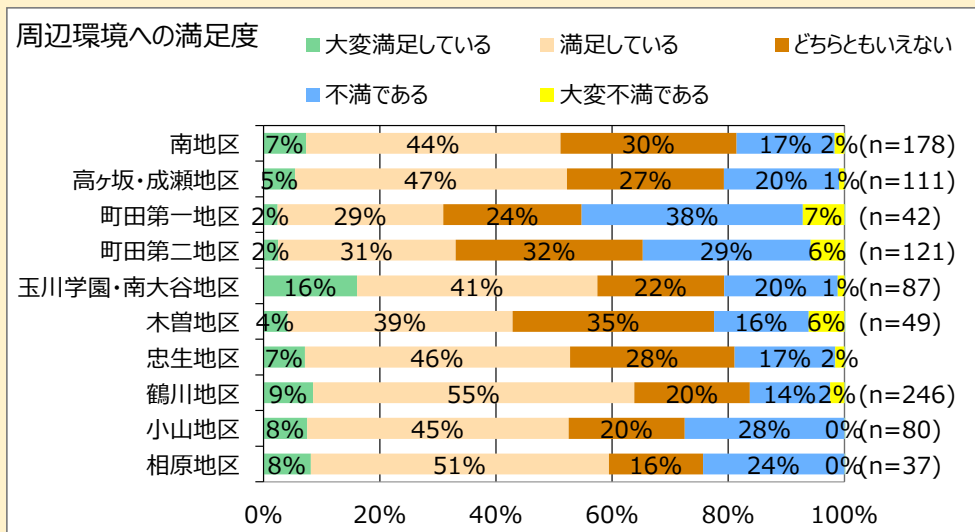


## ❖進捗状況❖

### 基本目標4

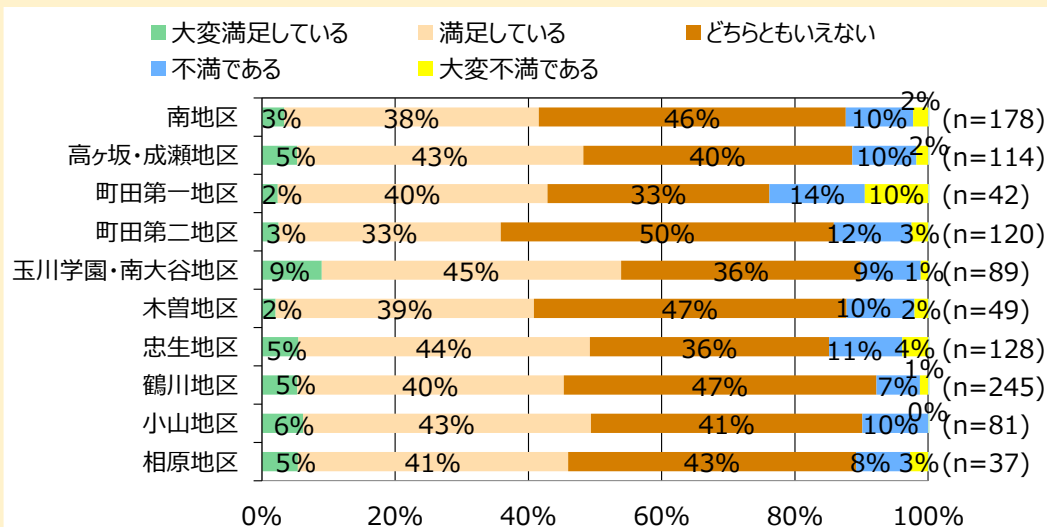
#### 【参考】アンケート結果

##### ①【周辺環境への満足度について】



①周辺環境への満足度は「町田第一地区」「町田第二地区」「木曽地区」で5割を下回っています。  
一方、「鶴川地区」「相原地区」は6割を超えています。

##### ②【まち並みや景観への満足度について】



②まち並みや景観への満足度は「玉川学園・南大谷地区」で高くなっています。

## ❖進捗状況❖

## 基本目標5

## ◆成果指標

指標	基準値 (年度)	目標値 (目標年度)	現状	
			現状値 (年度)	評価
環境に配慮した行動を行っている市民の割合(%)	39% (2022年度)	49% (2031年度)	39% (2022年度)	—
エコ宣言事業者数(店・事業所)	93店・事業所 (2020年度)	120店・事業所 (2031年度)	113店・事業所 (2022年度)	○
SNS等のフォロワー数	1,138 (2020年度)	10,000 (2031年度)	2,092 (2022年度)	△

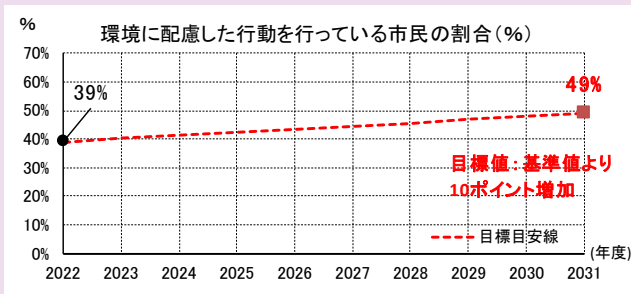
## ❖進捗状況❖

### 基本目標5

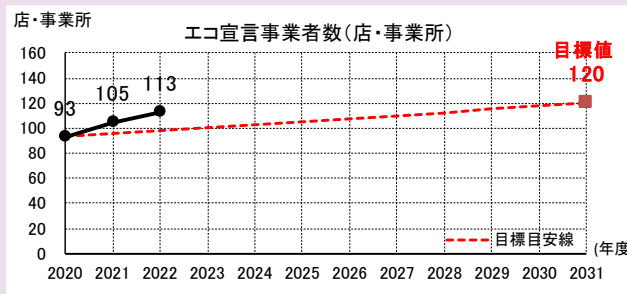
#### ◆各成果指標の評価

- ❶環境に配慮した行動を行っている市民の割合は、今年度実施したアンケート結果に基づき基準値を設定しました。目標値は基準値より10ポイント増加としました。
- ❷エコ宣言事業者数は目安線を上回って進捗しています。
- ❸SNS等のフォロワー数は増加しているものの、目安線を下回っています。

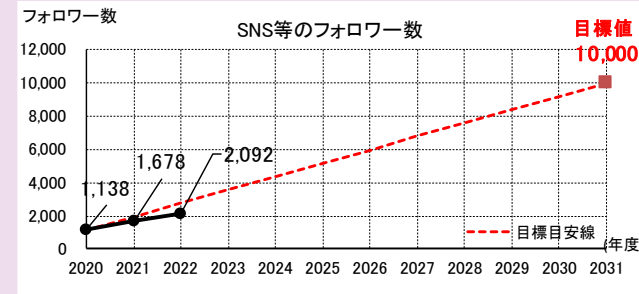
❶



❷



❸



※エコ宣言事業者：環境配慮活動を行う町田市市内のお店や事業者を「まちだエコ宣言」の登録店(事業所)として登録しています。登録は無料で、節電・省エネ、ごみ減量など幅広い環境配慮活動を対象としています。年度末に、市に活動報告書を提出していただいています。



エコ宣言事業者  
ステッカー



## ❖進捗状況❖

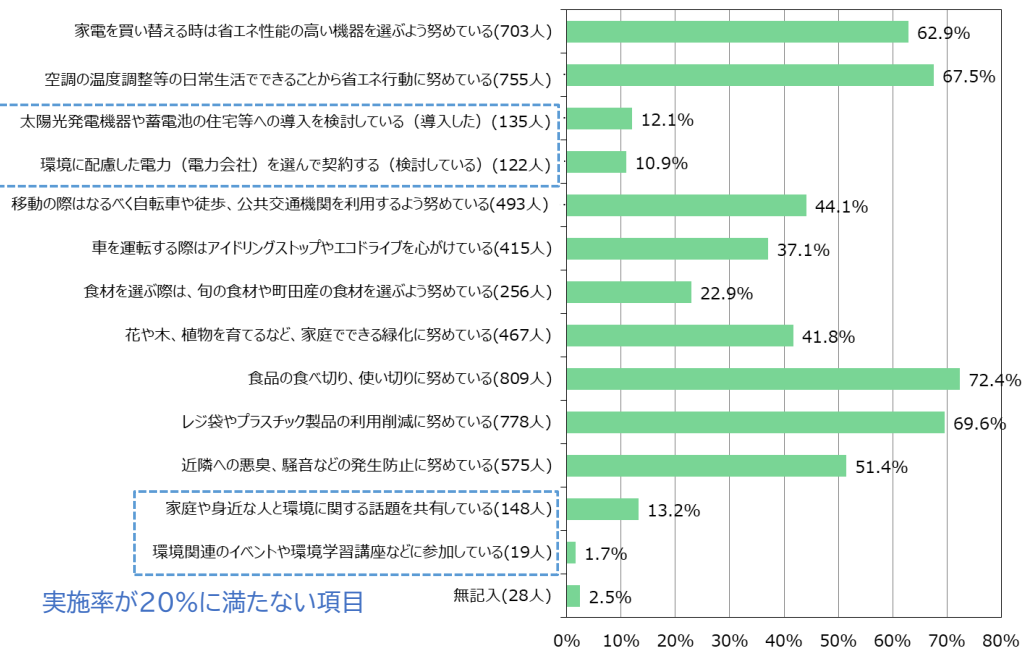
### 基本目標5

#### ◆【参考】アンケート結果

- ①環境に配慮した行動について、日常生活の中で行いやすい取組の実施率が高くなっています。イベントや環境学習講座などへの参加や、太陽光発電機器の導入などは実施率が低くなっています。
- ②市の取組について知っているものとしては、SNSの取組についての認知度が低くなっています。

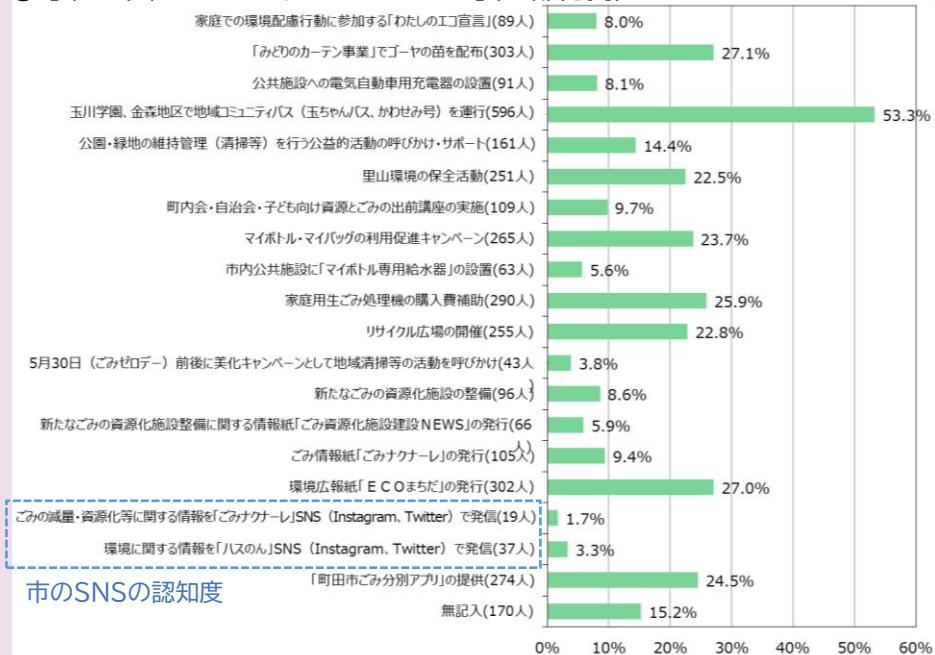
#### ①【環境に配慮した行動について】

(回答者数=1,118人)



#### ②【市の取組について知っているもの】(一部再掲)

(回答者数=1,118人)



### ❖ 総合評価 ❖

#### 基本目標1

全ての成果指標について、概ね目安線通りに推移しています。2020年度のエネルギー消費量や温室効果ガス排出量は新型コロナウイルス感染症の影響が考えられるため、今後の進捗状況を注視していきます。市内のEV、FCVについては重点プロジェクト2と連携して取り組んでいきます。

#### 基本目標2

アンケート結果による成果指標の評価が低い結果となりました。本アンケートからアンケートの設計を変更したこともあり、次年度以降のアンケート結果を注視していきます。

#### 基本目標3

ごみ排出量は目安値を達成して減少していますが、ごみの焼却による温室効果ガス排出量については増加傾向にあります。プラスチック、合成繊維由来の製品がごみにならないような取組を推進する必要があります。

#### 基本目標4

アンケート結果による成果指標は概ね目安線通りに進捗していますが、騒音に関する環境基準の達成が困難な状況です。

#### 基本目標5

概ね目安線通りに進捗しています。SNSのフォロワー数はアンケート結果によると認知度が低い状況にあるため、広報や内容の充実など市民の方に活用してもらえるように取組を進めていきます。

1

2

## 2.2 重点プロジェクトの進捗評価

重点プロジェクト1

重点プロジェクト2

重点プロジェクト3

重点プロジェクト4

重点プロジェクト5

### ❖進捗評価方法❖

#### 2022年度の取組

#### 2022年度の課題

昨年度に取り組んだ内容と、今後の取組にあたっての課題を掲載しています。

#### 指標の評価

#### 参考データ

重点プロジェクトごとに関連する成果指標を紐づけており、P16～P38で評価した成果指標を再掲しています。ただし、関連する成果指標だけでは重点プロジェクトの成果を定量的に把握することが難しいため、設定できる重点プロジェクトについては、参考として関連する統計データを掲載しています。

#### ロードマップの進捗評価

重点プロジェクトごとにロードマップを設定しており、ロードマップと比較した進捗状況を確認します。

#### 総合コメント

取組、指標、ロードマップなどを総合的に評価したコメントを記載しています。

重点プロジェクトのプロジェクトイメージは、P10～P14を参照ください。

### ◆重点プロジェクト1 再生可能エネルギー等の利用拡大

#### 2022年度の取組

##### 【再生可能エネルギーや省エネルギーの導入実績】

老朽化した空調機・給湯器・照明を省エネ機器に更新\*しました。

鶴見川クリーンセンターにおいて、町田市バイオエネルギーセンターで発電した環境にやさしい電力を2022年度から購入しています。

家庭用燃料電池システム(エネファーム)の設置奨励金を2022年度に新設し、150名の対象者に対して奨励金の交付決定を行いました。

##### 【再生可能エネルギーや省エネルギーの導入に向けた検討内容】

学校の電力を町田市バイオエネルギーセンター及び多摩清掃工場のごみ発電の電力で地産地消することを検討しました。また、太陽光発電のPPA\*事業について検討しました。

排ガスエネルギーを利用した過給式焼却炉を導入するための実施設計で、従来の焼却炉と比較して消費電力を20%以上削減でき、かつ熱回収率\*40%以上を達成できる焼却設備を設計しました。

旧境川クリーンセンター管理棟の建替えにあたり、ZEB化の検討を行っています。

\*PPA:Power Purchase Agreement(電力販売契約)の略で、需要家と発電事業者が長期の電力購入契約を結ぶ電力調達のこと

\*熱回収率:回収して再利用する熱量/全廃熱量

#### 2022年度の課題

##### 【再生可能エネルギー、省エネルギーの導入や利用拡大に向けた課題】

電力の地産地消と太陽光のPPA事業を検討しましたが、現状、費用対効果が得られないため見送りました。

設備の屋上利用として太陽光パネル設置を検討しましたが、設置を検討した建物の耐震補強工事が完了していないため、現時点では設置不可となっています。

ZEB化にあたり、現在想定している国の補助金※に採択されない可能性が高いため、別の補助金についても検討の必要があります。

※【環境省】(令和4年度予算) 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 建築物等の脱炭素化・レジリエンス強化促進事業

##### \*省エネ機器の更新

###### 【空調】

小学校5校で特別教室や管理諸室のGHP空調を高効率の機器に更新しました(計27台)。原油換算値で46.1L、CO<sub>2</sub>換算値で121t削減。更新前後で概ね40%のCO<sub>2</sub>排出量削減と試算。

###### 【給湯器】

小学校2校で6台の給食用給湯器を更新しました(計6台)。更新前後で概ね13%のCO<sub>2</sub>排出量削減と試算。

###### 【照明】

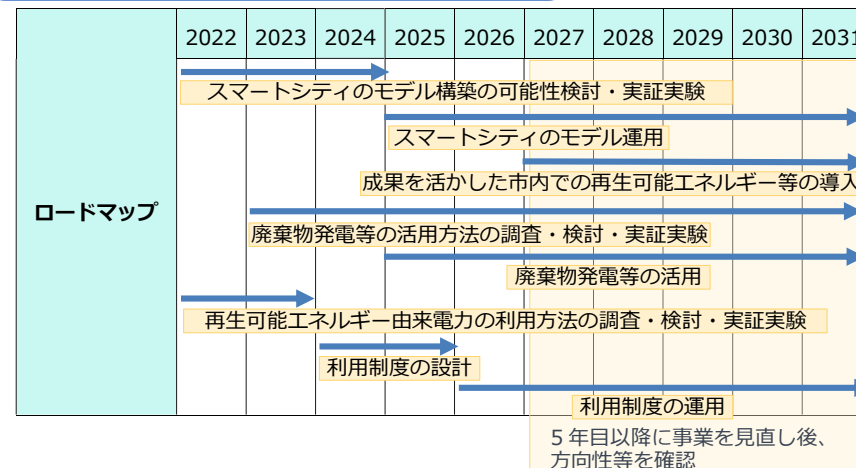
小学校5校258台、中学校4校199台で普通教室等の照明器具をLED器具に更新しました。更新した器具は46%のCO<sub>2</sub>排出量削減と試算。

## ◆重点プロジェクト1 再生可能エネルギー等の利用拡大

### 指標の評価

関連する成果指標	評価(再掲)
市内のエネルギー消費量(TJ)	△
家庭のエネルギー消費量(世帯数当たり)(GJ/世帯)	△
事業者のエネルギー消費量(延床面積当たり)(GJ/m <sup>2</sup> )	○
市内の再生可能エネルギー導入量(累計)(kW)	○
市内の温室効果ガス排出量(千t-CO <sub>2</sub> )	△

### ロードマップの進捗評価



スマートシティのモデル構築の可能性検討および再生可能エネルギー由来電力の利用方法の検討が実施され、概ねロードマップ通りに進捗しています。

### 総合コメント

- 2022年度の取組については、省エネ設備への更新や導入促進のための補助事業、再エネ電力の導入が進みました。
- 電力の地産地消、PPA事業、ZEB化などの検討も進んでおり、おおむね順調です。

### ◆重点プロジェクト2 次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用

#### 2022年度の取組

##### 【公用車への次世代自動車導入に向けた検討内容】

2025年度に更新するリース車両を次世代自動車に移行する方向で検討しています。対象車種は軽貨物車は電気自動車、軽乗用車はハイブリッド車を導入する予定です。また、既に導入済みの電気自動車(リーフ)もバッテリーの劣化により、2025年度に最新の電気自動車に更新する予定です。

次世代自動車メーカーから、意見交換やイベントを通じて、最新情報を収集し、関係部署と共有しました(6月、7月、8月、3月)。  
燃料電池ごみ収集車の導入にかかる実証実験について、東京都と2回意見交換をしました(8月、11月)。

##### 【公共施設への充電設備等の配置・運用について行った取組】

町田市バイオエネルギーセンターに急速充電器を設置し、6月から一般利用者向けに使用を開始しました。  
境川クリーンセンター跡地活用にあたり、施設内にEV急速充電器の設置を検討しています。

##### 【EV・FCV助成金制度の運用に向けた検討状況】

2023年3月5日に開催した、まちだECOtoフェスタに、クールネット東京(東京都環境公社)に出展してもらい、EV、FCVの助成制度について来場者向けに紹介しました。

#### 2022年度の課題

##### 【次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用に向けた課題】

燃料電池自動車は車種が少なく、業務に使用できる車がないため、現時点での導入判断が困難です。また、電気自動車は災害時に停電した場合、充電することができず、利用が困難となることが想定されます。

そのため、次世代自動車はEV、FCVも含めて、国(環境省・経済産業省・国土交通省)が策定した次世代自動車ガイドブックに掲載された車種から導入することとしました。

次世代自動車の燃料の供給インフラが確保されていない限り市内でのEV、FCVの普及は進まないと考えています。よって、EVでは充電器、FCVでは水素ステーションの整備、普及が課題です。

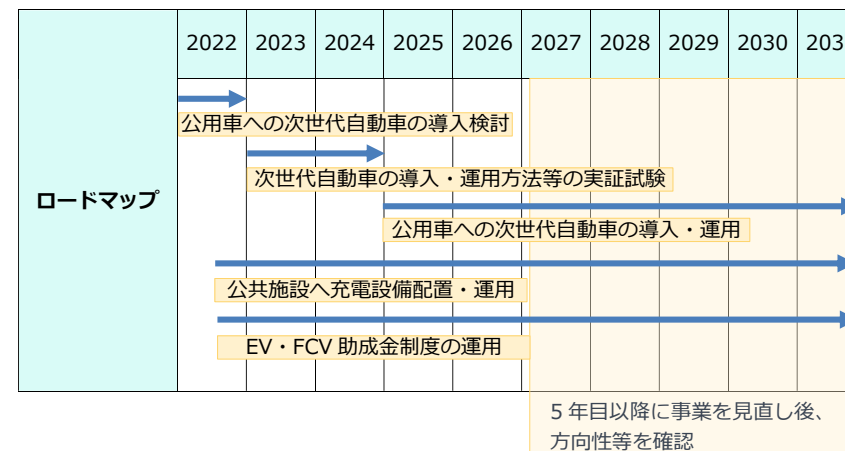


### ◆重点プロジェクト2 次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用

#### 指標の評価

関連する成果指標	評価(再掲)
市内の温室効果ガス排出量(千t-CO <sub>2</sub> )	△
市内乗用車の登録台数に占めるEV、FCVの割合(%)	△
居住地の周辺環境(大気、水質、騒音など)に満足している市民の割合(%)	△
大気環境、水環境、騒音に関する環境基準の達成割合(%)	×

#### ロードマップの進捗評価



「公用車への次世代自動車の導入検討」に取り組んでおり、概ねロードマップ通りに進捗しています。

#### 総合コメント

- 取組については、市民向けの普及啓発やEV急速充電器の設置、燃料電池ごみ収集車の導入検討が進みました。
- 一方で公用車の次世代自動車への切り替えは課題が多く、引き続き検討が必要です。

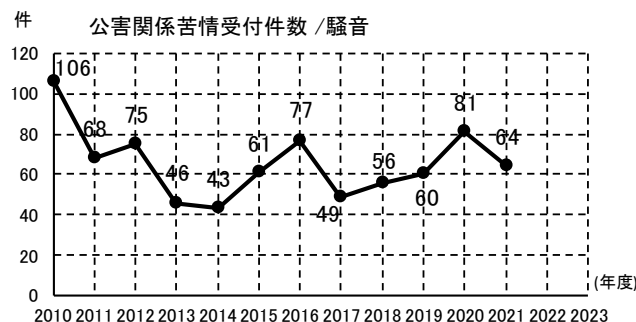
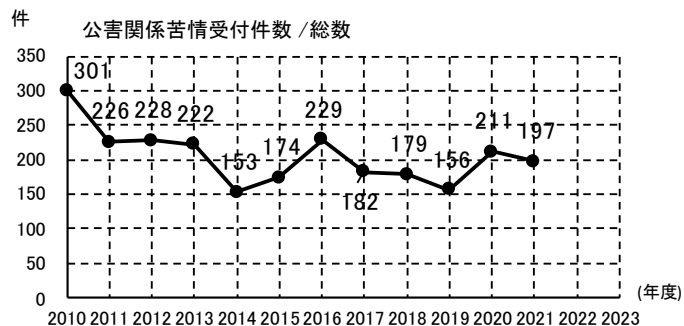


## ◆重点プロジェクト2 次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用

### 参考データ

参考データ	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
公害関係苦情受付件数 総数(件)	301	226	228	222	153	174	229	182	179	156	211	197	-
公害関係苦情受付件数 うち騒音(件)	106	68	75	46	43	61	77	49	56	60	81	64	-

出典:町田市統計書



### ◆重点プロジェクト3 里山環境の活用と保全

#### 2022年度の取組

##### 【里山の情報の集約や魅力の発信】

小野路宿里山交流館にまつわる情報は市ホームページや市報、指定管理者管理のSNSで紹介しました。

野津田公園の指定管理者と連携して竹細工教室やハナバチ教室などのイベントを開催し、取り組み内容をホームページを通じて紹介しました。

三輪緑地で活動する公益的活動団体に作成を依頼した、三輪緑地の魅力発信資料を、三輪の森ビジターセンターの壁面にピクチャーレールを用いて展示しました。

市内の里山をホームページで紹介するとともに、森づくり体験等のイベントの募集を広報等を通じて行いました。

##### 【里山環境の整備や事業運営の下地作り】

辺鄙な場所にあり、一部の団体を除き来訪手段が公共交通機関に限られていた三輪緑地について、三輪の森ビジターセンター附属駐車場設置を地元自治会と協議し、交通安全対策として交通誘導警備を4月の土日祝日に導入すること等で了承を得ました。このことにより一般の方にも、より訪れやすい環境を整備できました。

新たな交流回遊拠点施設の整備に向け、地域の住民とともに施設の機能や役割について検討するワークショップを実施しました。施設のあり方や整備候補地などの方向性を整理しました。

宮崎県の企業と「新しい里山づくり」に関する包括的連携協定を締結しました。

#### 2022年度の課題

##### 【里山環境の活用と保全に向けた課題】

フットパスコースの環境を守るため、マナー啓発の看板や道標の管理を行います。

里山保全を担う団体の方々も高齢化しているため、次世代の新たな担い手の発掘が必要です。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを踏まえ、施設管理業務委託の業務内容に含んだ三輪緑地ガイドツアーのイベント開催を実現することで三輪緑地の魅力を向上させていく予定です。

## ◆重点プロジェクト3 里山環境の活用と保全

### 指標の評価

関連する成果指標	評価(再掲)
市内の温室効果ガス排出量(千t-CO <sub>2</sub> )	△
市民協働による生きもの調査への参加者数(延べ人数)(人)	○
生きものに関心のある市民の割合(%)	×
みどりとのふれあいに満足している市民の割合(%)	△
水辺とのふれあいに満足している市民の割合(%)	×
みどり率(%)	-

### ロードマップの進捗評価

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
ロードマップ	→									
	里山の情報集約・魅力発信			→						
	事業運営の下地づくり、里山環境の整備				→					
	事業者・環境団体等による事業実施					→				
実施事業の検証(継続・拡充)						→				5年目以降に事業を見直し後、方向性等を確認

「里山の情報集約・魅力発信」「里山環境の整備や事業運営の下地作り」に取り組んでおり、ロードマップ上概ね順調に進捗しています。

### 総合コメント

- 取組については、里山の情報の発信や事業運営の下地作りを進めることができました。
- 今後は里山環境を守る取組も進めていきます。

### ◆重点プロジェクト4 地産地消の推進

#### 2022年度の取組

##### 【地産地消の情報発信】

市内を走行するバスやタクシーで動画等を放映し、まち☆ベジのPRを行いました。  
まち☆ベジBOOKを作製し、市民センターや子どもセンター、JAアグリハウス、小学校等で配布し、地産地消のPRを行いました。

##### 【最新の町田市市内の受け取りボックスの設置数】

2023年1月時点で市内15カ所に設置しました。

##### 【出荷登録者の拡充に向けて行った取組】

HPでアプリの周知を行いました。  
認定農業者向けにアプリ活用を呼びかけるチラシを配布し、出荷を促しました。

#### 2022年度の課題

##### 【地産地消を推進していく上での課題】

まち☆ベジの購入促進につなげるため、引き続き様々な媒体でまち☆ベジをPRし、認知度を向上させる必要があります。

市内産農産物流通促進事業として実施していた受け取りボックス(マートステーション)の設置については、事業者の撤退により継続できなくなりましたが、別の方法で地産地消を推進します。特に子育て世帯に、市内の直売所へ継続的に来ていただけるようなイベント等の取り組みを実施するほか、市民が利用しやすい市内産農産物の販売方法の検討を行います。

### ◆重点プロジェクト4 地産地消の推進

#### 指標の評価

関連する成果指標	評価(再掲)
市内のエネルギー消費量(TJ)	△
市内の温室効果ガス排出量(千t-CO <sub>2</sub> )	△
みどり率(%)	-

#### ロードマップの進捗評価

	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
ロードマップ	地産地消の情報発信									
	受け取りボックス増設									
	実施事業の検証(継続・拡充)									
	出荷登録者拡充									
5年目以降に事業を見直し後、方向性等を確認										

「地産地消の情報発信」や「受け取りボックスの増設」、「出荷登録者拡充のための広報」等に取り組んでおり、ロードマップ上は概ね順調に進捗しています。

#### 総合コメント

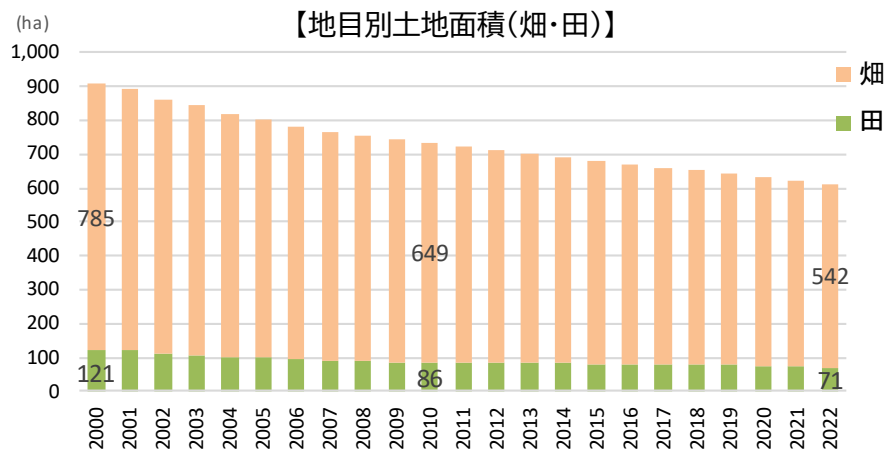
- 取組については、まち☆ベジの周知と、受け取りボックスを増やすことができました。
- 次年度以降について、「地産地消の情報発信」については引き続き取り組みますが、「受け取りボックス増設」「出荷登録者拡充」については取組が継続できないため、別の方法による地産地消の推進に取り組めます。ロードマップについても次年度以降、見直します。

## ◆重点プロジェクト4 地産地消の推進

### 参考データ

参考データ	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
地目別土地面積 田 (ha)	86	84	83	83	82	80	80	80	78	78	73	73	71
地目別土地面積 畑 (ha)	649	640	631	618	609	599	591	581	573	565	558	551	542

出典:町田市統計書(財務部資産税課)



### ◆重点プロジェクト5 フードドライブによる食品ロスの削減

#### 2022年度の取組

##### 【食品ロス削減に向けて行った取組】

今後、推進すべき食品ロス削減の取組の整理を進め、(仮称)町田市食品ロス削減推進計画の策定に向けた調整を行いました。

市の外郭団体である町田市社会福祉協議会の事業、「フードバンクまちだ」を支援しました。

家庭や企業で余っている食品を寄付いただき、主に食に困っている家庭に町田市社会福祉協議会で配付しました。

子ども食堂からの依頼も増加傾向にあります。

##### 【フードドライブに関連した取組】

2023年2月1日から市庁舎7階環境政策課窓口でフードドライブを開始し、町田市社会福祉協議会へ寄付しました。

2023年3月5日に実施した、「まちだ ECO to フェスタ」で、フードドライブ活動の周知やフードドライブを実施しました。

市民用の防災備蓄の一部を町田市社会福祉協議会へ寄付しました。

#### 2022年度の課題

##### 【フードドライブによる食品ロスの削減に向けた課題】

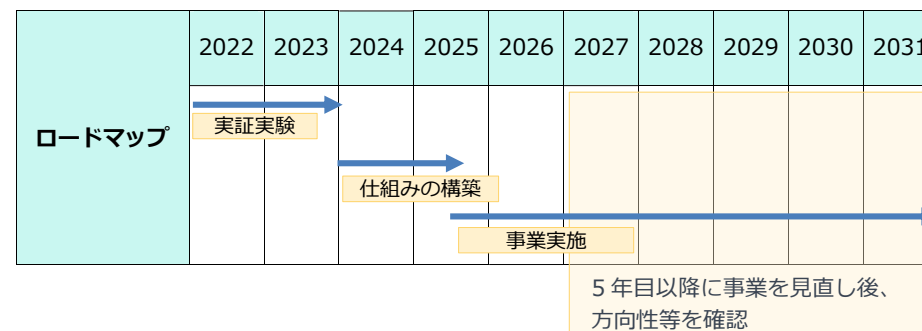
常設の回収拠点が一部地域に限られています。

### ◆重点プロジェクト5 フードドライブによる食品ロスの削減

#### 指標の評価

関連する成果指標	評価(再掲)
市内の温室効果ガス排出量(千t-CO <sub>2</sub> )	○
1人1日当たりのごみ排出量(g/人日)	△
ごみの焼却による温室効果ガス排出量(t-CO <sub>2</sub> )	×

#### ロードマップの進捗評価



フードドライブの取組は町田市社会福祉協議会の事業への支援を中心に取り組んでおり、ロードマップ上は概ね順調に進捗しています。

#### 総合コメント

- 取組については、フードドライブを拡大できています。
- 今後も、町田市のHub機能の拡大、広報等に取り組んでいきます。